

祚言

地方凡例錄

四上

9

73

4364

4

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22

門 7 保
番 4364
卷 4

改正補訂地方凡例録卷之四上

高崎

大石及敬士恭 著述

寄附地之事

百姓より寺社へ田地を寄進致すは直に寄進地とて譲り田地又を買附
地とて唱ふべし町入百姓より寄附と云名目を前より停止あり年貢
諸役も村方百姓並に勤むる志ある百姓寺社へ田地を附るとも苦し
らば然とて村役等勤むる様よりいふを禁制の昔先年相極する処宝
曆十二年以来總て寄附地の相成ざる事ありて當時ハ寺社寄進等
も停止あり

一用地に成る田畑之事

寄附地用也

田畑とも官の用地とあると私領あれば地頭へ代地と與え料所私領とも百姓へ代地と與へざる舊例あり然といへども用地と成る場所計り所持の百姓の勿論田畑少く持てる内と用地と成てハ田畑と離れ地主悉く難儀と及ぶハ土地相應の地代金又用地の品より代金國役割より入て渡し或ハ用水川除の為と潰さる地所の水村々高割りて差出させ以後地主へ地代金と取まるやう享保十九寅年相成り右地代金の積り方を假令ハ田壹反歩潰を此取米五斗あるハ年貢又を高内引と成て年貢諸役とも勤めざれども五分取と見て作徳米五斗九年と地主の損失あるハ十箇年分の作徳米五石と取せ此米と一割の利付と貸附とハ利米壹箇年五斗充永く取ると作徳米ハ損失はあつざる積り依て田畑とも其地所の年貢とて右の割合りて渡し

ま通法あり尤も右の通り取まる定法と云ふハ何れハ大方此當りて以て取まるるより又ハ其村田畑賃入直段と少く増て取まるるも何れ町屋敷ハ沽券証文の金高を以て取せ國役割高割等と差出さるも凡そ右の當りて以て取締る若し最寄の空地ありて新開にも成るべき地所あり代地と渡し秋下年季と以て開発とありともあり尤 用地の代地と付別願立する新開よりハ年季と長く極べきとあり

一 關所田地取上田地上り田地潰を百姓上げ田地之事

一 關所田地と云々重罪の者の田畑家屋敷家財等追一式欠所と成り又ハ田畑計り欠所と成るも何れ之と入札と以て相拂ひ代金を地頭へ納む

一 取上田地と云ハ田畑の儀と付何ぞ謀計ありハ事出入等の品より双方不相す何れと相分らざる處を其田地計り取上と成り又不埒

の質^{シチ}地^チ或^ハ科^カの品^ヒよりそ^{ケテ}欠^ケ所^トと云^フ程^ヨもあ^ク田^ノ地^ヲと取^リ上^ルる^{コト}ある^{コト}
等^イ幾^ク許^シり^テ之^ヲ取^リ上^ル地^ト去^テ是^ヲ又^ハ入^レ札^ト以^テ相^拂ひ^代金^ハ地^ノ頭^ヘ納^メ
む^カ尤^ク其^ノ時^ノ容^子子^ニより入^レ札^ヲし^ル者^モ多^ク村^ニ引^受ま^スと^モ申^付て^モ
直^ニ段^格別^下真^ニ當^トバ^拂ま^シつ^テさ^レば^村々^ニ總^作申^付る^{コト}も^有り^ト
上^リ田^ノ地^ト去^テ欠^ケ落^テ逐^電百^姓ノ田^ノ地^ト去^テ古^ノ来^ハ科^ノ有^ル無^ク拘^ワり^トば
總^テ取^上る^{コト}致^シ村^々總^作成^ル法^{アリ}し^ニ近^来ハ借^金等^相當^ニ身^上取^ル
續^ガつ^テ是^レ派^アく^欠落^シつ^テ科^ガ欠^ケれ^バ田^畑取^上る^{コト}相^成ら^ズ子^孫
孫^ノ者^相續^ク若^シ獨^身者^ハ或^ハ妻^子と^引連^出奔^ル跡^株相^續
人^ハ亦^チ節^ノ親^類ノ内^身近^ノ者^引請^年責^諸役^相勤^め親^類多^ク者^ハ縁^者
者^好身^ノ者^と吟^味ノ上^引受^まる^{コト}い^ハば^好身^ノ者^ハあ^ク跡^株引^請
請^人亦^チ札^ハ札^ハあ^ク上^リ田^ノ地^ニ致^シ年^責未^進等^ノ分^ハ田^畑入^札と

以^テ未^進丈^ノ相^拂ひ^正責^償ノ残^リノ田^畑々^村々^總作^申付^置後^年
一^ニ至^テ本^人立^歸り^しと^レ科^ノ多^ク者^亦れ^バ之^ヲ歸^シ渡^を為^ス拂^ひ
又^ハ致^さる^法あり^去あ^る數^十年^相立^總作^地ノ儀^村方^々々^難儀^ニ
及^ブ段^々願^出る^{コト}兒^々其^即入^札と^以て^拂下^るコ^トも^有り^ト
一^年責^未進^等ノ分^ハ又^ハ連^々作^例成^リ潰^レ百^姓出^来上^げ田^ノ地^ニ願^ひ札^ヲ
あ^ク上^リる^分々^是又^ハ總^作申^付又^ハ小^作申^付致^させ^連々^未進^分
と^取立^テ消^次弟^元地^主へ^田地^と歸^へを^然ま^とも^元地^主村^方々^離散^シ
百^姓株^々あ^ク上^リ切^り成^る分^々入^札と^以て^拂ひ^致し^地主^相定^め
元^地主^未進^丈當^地主^{より}相^納る^苦あ^れども^夫れ^を當^年責^とも^二重^と
は^差出^を受^ける^{コト}も^有り^ト望^人亦^チ先^づ總^作小^作申^付未^進
進^分取^立消^次弟^入札^申付^る又^品由^テ其^村水^吞と^人品^吟味^ノ上^割取

まゐるてもりり右總作地の分何きも村並年貢諸役相勤め作徳の内種
肥代と渡し其余分を地頭へ納め作手向を村役より定法あり

一 欠所取上田地より田畑とも拂ひあるとた實地は入置する分を入札
と申付實金高より八折直段高直るれが實金と取主へ相返し田地を落

札人へ相渡し残金を地頭へ取る若し札閉の上實金高より下直るれど
年貢より物より流地より一實取主へ田畑相渡を定法あり尤も實地

証文定法より外も不持ある証文をれを實金へ取主損失より田地を取
上又至て不持るれが吟味の上取上て答と申付るるなり

一 欠所田地取上田地を作徳米と取立る定法あり故に其年の收納相済年
貢皆済しする上欠所取上するれば作徳の分は勘定と納めさせ欠所

なるも尤も身代限り取上るると付手作の分は別段は作徳米相立べき

処もふし併し若し小作に入置する分りりて小作人より年貢の分余米
地主へ差出さすべき分米と相渡さるるに於ては地頭へ小作人より取立

る又欠所より米と科の品よりとて田畑計り取上る成り家屋敷家財
とも構ひ多く百姓の株相立らるる者も手作分作徳米とも相納めらる

る然る処右作徳米の分心得遠くとも年貢同様本石より立て計り立と以て
取立る儀より元年貢へ本石より付計り立と以て取立るとるれがり百姓

相對の米の取遣へ本石と申すとも多くとて計立は付別段計立と加
えべき様もふし及令バ小作米より三斗七升入五俵と極め置ハ則ち

三斗五升と計立より三斗七升は成る右の五俵より計立加り有て
賣米等も同様百姓相對の取遣は多くとて計立は付作徳米より別段

出目を加えざる法あり借入右欠所取上の時即收納前より田畑より作物

つるをれを作物ともし取上るは付直は作徳ゆ加り居るより又耕
作手入取中の時分取上よあるとれを惣作並村人足よく手入修理と差
加え実衆の上收納申付る又上り田畑々科の多れをのこて扱あへ上と
る田地は付其年の作徳と抄汰は及ばざることあり

一 譲田地之事

父兄より譲り受くる田地は其家相續の子孫の外へ譲り渡しするはかち
子弟と去りし相立は譲渡し証文へ村役人の加印と取置くべし其外親
類等由緒ありて譲渡をせし礼金と取て譲るべし停止あり表向は譲り
田地の文言より内へ金銀と取るは永代賣同然の所置は成る定法あり
又親類縁者よりとれなく死縁のりへ田畑と譲渡よふき謂はるはとれと
付若し死縁の者へ譲地等ありて証文面は礼金等の文言ありとれと出

入は及び吟味も成るとれは譲渡しし子細と克く相對し他人へ由緒な
く田地と譲るべき助とふし尤も家来筋のものへ呉る儀は格別あり何
れも譲り地或は慣流地又山林町屋敷等買請するとれを早速名主五
人組へ断り當時の持主名前より名前帳に書改めべし若し名前書改め等
ある分は公事等よりわが取上地よる定法あり

一 田地配分并遺状之事

高と拾石反別と壹町歩より内所持の百姓子弟へ分地は儀の前々
より停止は付残し置く分と配分の田地ともせ石武町歩所持の者あり
ども分地を成がとれの内証として種々手段と為し密に配分するて有
て穢し成り却て不締は付以来は残り高拾石反別の壹町歩あると分遺
を分へ小高ととも配分し然るべきは享保七寅年より相定りたり

新訂地所傳録 卷之四 田地配分遺石

一 田畑屋敷山林其外譲渡の儀も存生の内遺状に記し置とも名主組頭の
加印あり一分の心次第に認め置し遺状の死後に至りて立難し尤も親
類加印ある分の其品より村役人の印形ありとも相立ともあり

一 越石之事

越石と云々知行と割渡をとり分の高不足をれども拾石内外の儀は
て分郷ありても地所并に百姓と引分て渡をとも成がうれども地
処も百姓も極らば只物成と高計りと遣を越石と云々令に誰知行
百石相渡をぐま処へ百九拾五石の村と渡し内五石不足の分は高の
久田畑百姓と分け分郷に成がうれども付隣村の料所とも又私領
りても三百石の村なる此内と五石誰知行へ越石と云て三百石の村よ
り物成五石分計りと渡をり依て越石へり諸村り物人足役等も掛ら

ざる定法あり越石の知行の内あつて地頭より取箇と附るるも成難く
高役割合り相成らば年貢も越石村並の取箇とて相納るるなり夫れ
拾石以上の越石と云へし寂早石より三拾石よりあれば越石も致
さば高地処百姓とも引分て分郷ありたり然る処他村より入作百姓
と心得違ひ越石百姓と唱ふるるなり是を不案内の儀とて越石入作出
作ハ悉く訣の違ひをり故に近來ハ越石もあつざる様は知行割りて
村方と割渡をり付先の越石ハ稀るるなり又ト村の芝地と上村の百
姓新開のりり兩村とも同じ地頭の人役人心得違ひて地主の住処上村
の高に結ぶと下村より越石高と云あり

一 出作入作持添之事

出作と云々當村の百姓他村の田地と持ち他村へ出て耕作するると出作

改正... 出作入作

と云ひ他村より入作と唱ふ畢竟出作も入作も同じく名もども双方
の村より唱へる違ふのみ百姓住居の村よりハ出作と云ひ田地の地元
村より他村より来りて作るも入作と唱ふ又同じ文字より小作の
こと入作とも請作下作却作捉作もとも唱へ何れも小作のてらるれど
も其國外より名の違ふやでのてらるり

一持添と云々譬ハ高百石の村より五拾石充二拾石分ると云々三拾石充持
つる百姓二人と分け遣せ六拾石あるゆえ拾石の余計あるは村内
壹人々他領の高と拾石持と持添と云々も持高の多少は依て其百姓料
所百姓より私領百姓より其身の極りたるは高の少き方より其領分
の百姓より付他領の高と多く持ても他領の方持添より石名目の外に抱
田地抱屋敷なる名目ありて之を其村の百姓よりハちりて外に

其村の田地屋敷と所持するを云々出作百姓へも其年の年貢を割附
け并に諸役割帳等も本村百姓同然に見届きしべし村役人心得違ひ
て出作百姓へも諸帳面ももせし諸役等も本村並より多く割附さるる
間あるは村諸帳面ハ此度見せへきてなり

一質田地之事

附小拾帳之事 貸金責務之事

田地を百姓永代の家督よりとり人ども貧富常るるは止こと得ど田地
と質より入きて其用と足を処動ゆれば地主金主出入り及び喧きこと多
し扱質地の品も多かれハ出入の取柄も甚だ煩多かれも其大聚と左
よるる先づ質田地價の儀ハ其村より前より通法ありて場処督取
寄替知行渡し等より郷村と受取と見を村と田畑上中下と分け質入定

直段と帳面は仕立役所へ差出さるるより先村々の貧富を随ひ田
地の勢不勢も替るるものへ古今實直段一定を以て古來定りたる直
段より當時の高下より畢竟居村他村も金主の存寄して貸遣はるる
え定直段と以て取遣はるるより先ある時宜は随ひ置主金主相對して
極るより併し其村より古來より定め置く直段と以て通法より置主夫
々見合せて高下を論じ若し又何ぞ請負願等より地頭へ實田畑等々
書上置くより右の定直段と以て積り立て金高に應じて及別々書出を
てらるる

一 實地證文通法ハ端書ハ實地證文と認め字何の上中下田畑何及何畝何
歩何箇何當何の年より来る何の年より何箇年季は相定め實地より入る
金季何程借用の一年責諸役ハ金主方より相勤むべく年季明け元金

皆清りせしが田畑受戻さるべき極めより年号月附相認め證人相立名主
加判りて宛處證文差出し金子を借受るるより若し及別多く証文より一
筆限り認め難々ハ証文面ハ合及別何町何及歩と致し別帳は水帳の
名前帳通り一筆限り字位及別々認め是又置主持主印形より証文より添
えて差出と之を小拾帳と云勿論証文より別紙小拾帳添へ之る段と認
め入る右の外年季は限らば金子の有合次第請戻さるべき證文より又
一年季明き請戻さるるハ流地より先ある證文よりある

一年季内實地受返し度願之事
是ハ證文定めの年季明き内受返し度旨金主へ掛合とつへども不承
知り付地主訴へ出るより於て年季内受戻さるべき法を承知るとは付年季
明と待て受戻さるべき旨を申付るより

一年季明實地取割之事

是れ拾箇年より拾五箇年までの年季は相極する分年季明より拾箇年迄の内は受返し度段願出さる吟味の上地面相返させ又拾箇年内の年季は拾箇年の長短は應じ明する年より二箇年五箇年までの内訴へ出るを沙汰し及び右年限過て訴出る分は何れ取上む流地へ入るべし

一年季に限らば金子有合次第受戻さるべき證文之事

是ハ質入の年より拾年内は受戻し度段訴へ出るは於ては請返させ拾箇年過て訴出る分ハ流地へ申付らるる

一年季過て受戻さるる者を直に流地致さるべき証文并に年季明し上ハ子々孫々迄構ひある金主進退致さるる或ハ此證文を以て永く支配致さるる又ハ名田に致さるべき事との文言之事

是ハ年季明け期月より二箇月迄の内訴へ出るは於ては吟味の上受戻させ二箇月過て訴へ出る分ハ取上らるる

一字位より或ハ名主の加印あり又ハ宛所ある年号等あり或ハ此定の外長一年季證文之事

是れ何れも不詳證文を付訴へ出るは取上は實地へ入らるることを名主存知あり加印せざるは名主を過料存せざるは各々及名主所持の田畑質入りさせ相名主加印あり同役ふらねば組頭加印致し加印ありの分ハ右同然らる

一二重質之事

是ハ同じ田地を兩人へ質入るるを禁制する真品より地主各申付地処を先質取らるる者へ相渡をせらる

一 又質之事

是を質と取り田畑と取まうり又外へ質を置と去是又制禁らう然
らば元地主承知りて加印のき元地主へ消方申付又質地置とる即増
金借受をば其分ち又質置とる者へ消方申付るなり

一 質地の年貢計り金主差出し諸役へ地主勤むべき証文之事

是は通例の金高より余計借受け其代り地主より諸役相勤め不将ある
証文を付年季内あるが定法通り証文を書直させ双方并に加判名主
より過料申付る年季明訴へ出ると此々二箇月内あるが地面受戻させ
二箇月過あるが流地申付勿論双方掛り合とる過料申付るなり
一 質入の地面半分直小作を致し質地高残らば年貢諸役より地主より勤
む証文之事

是は右同勘るなり

一 証文端書より質地を認め文言の内より受戻すべき儀も年季等しるは不
将ある証文之事

是を實の永代賣るれども停止のてより証文計り質地の様は紛らう
為認めらる儀と関り至極不将ある証文を付吟味の上双方より永代賣
同様の答と申付るなり

一 質地受戻すべき様吟味の上消方申付る以後元金滞りし段金主訴へ
出する時之事

是は尚又吟味の上消方申付其上より滞りて於ては地面金主へ相渡さ
せるなり

一 質地年季定之事

是を前々八年季の限りより五箇年より廿箇年より双方相對
りて極めたる外享保六三年以来年季八拾箇年より限りたる内
の年季を勝手次第拾年以上の長年季の停止に成り拾年以上の
年季証文を以て請へ出るとも取上げ尤も其品より吟味の上夫より
咎と申付る

一地主死後實地受返之事

是を地主死後實地受返の儀地主の子孫より外親類を受
戻し度段願出るとも受戻を吟味の品より流地申付るとも
なり

一實地証文小帳合せの節之事

是を實地証文字位及別等小帳名寄帳等より引合せ相違の處
を証文の文言と宜くとも實地より相立借金に准じて取計
入尤も加判致しと村後入と咎と申付るとなり

一實地年季内内消の節之事

是を地主金主對談の品より年季内内々請戻より積り及令
が元金拾兩の処年季内五兩消殘金五兩年季明より相消する
旨金主訴へ出るに於て内消の五兩を金主より地主へ相返し
地面を流地と申付るとなり

一朱印地寺社田畑敷等買入又譲渡せし節之事

是を朱印地寺社領の田畑屋敷と其寺の住寺其社の神主積入
りたる又々礼金と取て譲り渡したる時々神主任寺々江戸
練拾里四方追放實に取或ハ譲り受るとる者々地面相返させ
其上重き咎申付るあり

一實地置主身代責出入及の節之事

是を田畑を實入する者身代責より後出入し及び訴へ出る時
年季内

を金主ハ作らせ年李明も上右の田畑々地頭へ取上る若し不埒ある
証文あるハ直に取上るべし

一 質地主并貸金之儀に付元文三年評定一坐申合の書付

覚

一 質地主証文又年李明不受戻れど可致流地由の文言有之ハ年李明早速
訴出れども流地の旨申戻受戻しの儀申付間敷

但し期月前に至り前廣に訴へ出れ者ハ取上可申

一 右流地証文直小作滞り訴へ出れ即ハ地面金主へ流地と為相渡小作
滞りハ奔損可申付

但し別小作滞りハ如通例日限可申付

一 質地主証文宛所入を名主加判等無之ハも享保十四酉年以來の分を

借金の准じ元金小作とも三十日限り申付間別小作滞り是又借金よ

准じ小作人よ済方可申付

但し高利に當りハ直小作別小作とも壹割半の利足し直し済方申

付寄ぐ

一 名田小作を無判の帳面に記し有之ハても只今迄済方申付得とも證

文又帳面に印形無之ハ地主死念不問向後取上申間敷

一 帳面附置借金印形無之ハも目寄附込帳に書人有之ハも取上申間

敷

一 附込帳を一日の内大勢裁口も賣掛れハ賣場の順に附込しとゆえ

印形無之ハも取上裁許仕来りハ一日に壹人貳人の賣口又も目数隔

りハ様あるを目寄附込帳と去りてを無之ハも取上申間敷

一旅商賣等の帳面其村々宿又を口八人の印形許り取置賣掛の分ハ向後

取上申間敷小

一質地借金賣掛等証文不埒より取上多分願ひ入ハ享保十四酉年以前の分

とも近年之貸金の様ニ申出裏判附小類有之ハ右を訴へ出小即証文帳

面等差出させ相改め吟味成るべき方を初判之と出さべく小只今迄ハ

右之格よハへども相談の上弥右の通り相極小事

右之通一坐申合小以上

元文三年二月廿五日

三奉行

一 小作之事

附 眞小作之事

別 小作之事

永 小作之事

名 田小作之事

家 守小作之事

入 小作之事

小作佃ト云ス

古河地頭自耕

小作ト云フ

小作或ハ下作

小作或ハ下作

小作或ハ下作

小作と云々自分所持の田畑と居村他村よりとも他の百姓へ預け作ら
せ又々田畑と質地と取り元地主より別人より小作を年貢の外
に余米又々入米ふと云と壹及何程と作徳と極め作らざるを云元
来を佃と云ものるれども世俗小作と唱へ来る古の詞は佃正作と云
てより之を地頭の田と百姓受て作るを云あり正作と地頭の手より
作るを云く往古其農分まざる時のてより内又小作のてを下作入作請
作擬作却作とも唱へ國所の俚語より種々云習と云と云くとも何と
小作のてより直小作別小作名田小作永小作云々色々の定め方違
ひあり即ち夫々左の記をて見るべし又此證文の通法を一筆限字何田
畑何及何畝何歩何箇処預り小作より年貢諸役の勤る上小作入上余
米何程差出さべし若し滞し即ハ何時より地面取上可申其節一言

改正地方簿録 卷之四

の儀申間敷旨地主へ小作人より証文と差出し年季と極て作るものなり
又一年限又致まらぬり或ハ年貢諸役も地主方より勤る様極め年
貢諸役米余米とも壹反何程と儀數と余計は地主へ納むる極めなり是
と定め米と去ハ又捉米とも去るなり

一 直小作と去ハ田畑と質入を地主直小作より去小作証文年季と
質地年季と准むる直小作を別小作証文とあく質地本証文と小作
の段と書入て何と出入等の節も去証立つておるなり

一 別小作と去ハ田畑と質入取地地主より拘りて金主より外の者へ小作
の段と書入と去証文と年季ととり一年限より勝手致まらぬり
一 永小作と去ハ質地の小作より去るより自分所持の田畑と年季も取極め
数十年間小作致まらぬると去永小作を地主と謂まらぬ地面と取上外

直小作
田畑と質入を地主
直小作と去ハ田畑と質入を地主直小作より去小作証文年季と

別小作
田畑と質入取地地主より拘りて金主より外の者へ小作の段と書入と去証文と年季ととり一年限より勝手致まらぬり

永小作
数十年間小作致まらぬると去永小作を地主と謂まらぬ地面と取上外

名田小作
廿年以内他小作
七十年以上去三三
去ハ永小作と準

の者へ作らる儀の成がて若し小作米滞りし節地主より訴へ出ま
ど小作米の吟味の上定法通り清方と申付小作の前への通り致まらぬ
てらる然ととも年貢滞り木埒のてあるり又は何ぞ格別の子細何とバ
地面と取上地主へ相渡と小作定め米証文等ハ別は替るてらるるむ永
小作の田地と小作人の方より質入は又と別人へ小作は渡とて禁
制あり當時ハ永小作と去と少く拾年より長年季の致まらぬり
一 名田小作と去ハ質地の小作より去るより自分所持の田畑と年季も取極め
余るものへ小百姓へ数年作らせ置と名田小作と去廿箇年以上あるれば
永小作と准むる若し出入と及びらるると証文あるり地主帳面は印形取
置ハ沙汰と及ぶといへども証文もあく帳面は印形もあくた地主の
光念より付取上るてらるる

改正地方所傳金 卷之四

家守小作

一家守小作と云ハ田畑及別多ク小作人入るゝ地地主世話届き兼々
 小作の世話人と立て之ハ附置世話と致させ小作地の内何及歩
 極め家守給の作らせ年貢諸役の地主と勤むり受人と立て家守受
 状と取家守給の外小作ハ外立ハ小作証文と差出さるる若し小作滞り
 出入及及びし時小作証文ハ請人加印有て家守受扶通りの小作証文不
 且ハ當人受人兩人ハ濟方申付滞り於てハ兩人とも身代限申付あり
 入小作と云ハ他村より小作の仕方別ハ替ると云ふし

永代賣之事

田畑と永代賣渡してハ百姓家督離色有徳ある百姓ハ益々田畑多
 く成り小百姓ハ次第に潰れ後ハ一村の田畑も一兩人こそ所持し又
 他村の百姓の物と成り付寛永二十未年以來永代賣買嚴しく制禁

小作
他村より小作
永代賣之事

古法

一 田地永代賣買之事

成る若し密りハ田畑と永代賣渡と云ふの如く露頭と云ふは賣主
 牢舎の上所拂ひ本人果るゝにハ子同罪買主ハ田畑を取上過料あり
 本人死するゝにハ子同罪證入り過料本人死するゝにハ子の構ふし名主ハ
 役儀取放を定法あり又質物証文ハ年季あり或ハ子の孫々まで名田致
 せべく又受返せざるべき文言の多し質地又譲り渡さるべき由緒あり者
 ハ田畑と譲り渡りて礼金と取らるる分ハ何れも永代賣買准しと所置
 るてらる

改正地方列録

卷之四上

田畑永代倍金質

十五

古今は男子廿歳より口分田と給ひ六十一歳はあれり之を還り口分

田々

朝廷へ還し奉るものゆへ賣買するところあり永業田と云ふ永々其家こよ
持傳へたる田地は是れ我物あれば勝手次第に賣買は又田宅家財
婢と賣買するへ和漢共古法より至て負うれば石の品も賣びしと
叶はざるものあり然るも今の上古の法令の廢絶しつれば寛永以後
永代賣買へ堅く停止せられ古を以て今と論ずるよは及ばざるべし
とも古法のとも知て今代の法と守る可あらむと古法例を記し置
とものり

倍金賣地

一 倍金賣地之事

田地永代賣停止付内倍金賣と名け候令バ拾兩相當の田畑と金主

相談の上質地証文より質金廿兩より三拾兩より直段を上げ一倍又々
二倍増より認め手取り拾兩の田地と金主へ相渡し年季明ても受返し
難き様はふし若し出入等も成るとは質地ともなる様は賣主買主
相談より謀計を以て永代賣とする儀内なる由是れ買主の方より重
く望み倍金手形あるが買取へき旨を申すは是れ永代賣同然
りと厳き禁制あり箇様の証文大方に名主組頭加印を致さざるべし
訴へ出るとも取上ふしつて済とあれとも其村に田畑質入直段相應と
云物あるもの付若し不相應の金高あるが吟味と遂に弥法度の倍金
質を決せられ出入済方ら沙汰し及ばぬ双方とも重き過料を申付る賣
主買主とも過料負敷の例は拘りぬ身代は應じ重く申付る若し名
主の加判あり證入の印形等らと證入名主とも過料を申付るなり

年季賣本物

但し其國より訴訟とあるは右様の取遣とる処なり既に奥州上伊
達信夫郡共邊へ多分倍金手形とて實地取遣とるは儀士果より
仕来りの様成り定法通取計ひて郡中の障成て治らざるは
付取計方其筋へ内々同く處速國斤鄙とて法も存せざる國柄若し
實地出入及びする時差界致し倍金の安うとも倍金を顕き証
文認方等外は不行届の薦りて其筋を以て地処を引渡さざる様吟
味詰致し外の障成ざる様取計ひ然らざるは裁の旨挨拶ありし

年季賣本物返之事

関東方より年季賣の田地と上方筋より本物返とて天張實地の容
るるりのるれども利足の勘定とて作徳の上り等と相考へ金高も資金
とる違ひ金子と貸し年季と定め田地と買取り作徳と金の利致し无

頼納

利足とて賃田地々金主方へ受取り手作りせり又々小作又入るとも勝
手次第より年季明ると元金を返し田地と取戻るとも本物返
とて地主へ田地と返すとて付年季賣の法度とてをかし

附半頼納之事

田畑賃入の即通例の賃金より金高余計借受其代り田畑の金主手作
致し年貢諸役の地主相勤むとて頼納とて金主の作り取り致すとて
免貞享四年より停止し成る若し出入及びする即ち地主の重き咎
質と取らるりのり地面と取上てより咎加判の名主の役儀と取放し証
人として置く定法あり

一 半頼納とて六の田畑賃入の即金高少く借受地主直小作致し年貢の金主

半頼納
金高少く借受地主
年貢の金主

文正七年凡例録 卷之四上 頼納残地

全主トシテ
地主トシテ

より納め諸役の地主の方りと動ると半頼納と云頼納も同然制禁るる
若し出入り及びする節々地主吐り金主并に加判の名主の過料年季内
あつた定法通り証文を仕直させ年季明と地面を取戻さるるわら年
季明と二箇月の内は訴へ出さる右の通り二箇月を過さるる流地は申
付る受戻しとも流地は成ても谷の右の通りるる

一 残地之事

是は及令の質入の地面壹町歩質金通例より余計に借受此内五反歩の
地主方より残し置て直小作をいりり五反歩の金主方より手作をいりり質
入高壹町歩の年貢諸役の地主相勤め成の壹町歩相當の金高借受金主
へ五反歩相渡し五反歩の地主方へ残し置て手作をいりり壹町歩の年
貢諸役の地主相勤め類の何れも金主の五反歩又けと作り取りりり

いりり付半頼納同然の所置あり

一 切畝歩之事

是は水帳名寄帳の面及令の壹反歩と一筆に記しある田地を五畝歩
三畝歩地主方より残し其余の地面を質入のいりり切畝歩と唱へて法度
より若し流地は成るる即境不分明りり水帳の面畝歩筆数相違し未
出入り成基より付残地同然の制禁るる若犯者の残地同様の仕置あり

一 書入田地之事

是は質地より違ひ金子を借用する時金子何程借用のいりり當何の何月
より何月迄何程の利息を借用のいりり元利滞りり返済のいりり
書入又何村より所持の田畑字何の上中下何反何畝何歩何箇外差出置
若し返済滞りり節に書入田畑相渡りりき音の証文を差出し置りり

書入田地

切畝歩

残地

全主トシテ
地主トシテ
一 切畝歩之事

質地^{シチ}のくちあられども田地^{デノチ}と書入^{ナシ}致^{ナシ}を付^{ナシ}其村^{ナシ}の石^{ナシ}加^{ナシ}印^{ナシ}致^{ナシ}とて
るり尤も田畑^{テサツ}を地主^{テサツ}方^{テサツ}こそ手^{テサツ}作^{テサツ}をさるとも小^{テサツ}作^{テサツ}を入^{テサツ}るるも勝^{カシ}手^{テサツ}次第^{テサツ}
るり質^{ホカ}を入^{ホカ}置^{ホカ}るる田地^{ホカ}り又^{ホカ}を外^{ホカ}へ書^{ホカ}入^{ホカ}置^{ホカ}るる田地^{ホカ}と二^{ホカ}重^{ホカ}を書^{ホカ}入^{ホカ}るる
於^{ホカ}ての答^{ホカ}め申^{ホカ}付^{ホカ}る又^{ホカ}金^{ホカ}主^{ホカ}方^{ホカ}こそ二^{ホカ}重^{ホカ}を書^{ホカ}入^{ホカ}る儀^{ホカ}を存^{ホカ}じとて証^{ホカ}文^{ホカ}を
取^{ホカ}り於^{ホカ}ては是^{ホカ}亦^{ホカ}答^{ホカ}と申^{ホカ}付^{ホカ}る書^{ホカ}入^{ホカ}の儀^{ホカ}と質^{ホカ}地^{ホカ}より相^{ホカ}立^{ホカ}び通^{ホカ}例^{ホカ}の借^{ホカ}金^{ホカ}通^{ホカ}
り取^{ホカ}計^{ホカ}しとてらる

一 却山請山之事

却^{ヤマテ}山^{アイ}と云々外^{ヤマテ}村^{アイ}より山^{ヤマテ}手^{アイ}米^{アイ}を出^{ヤマテ}し場^{アイ}処^{アイ}を定^{ヤマテ}め入^{ヤマテ}来^{アイ}ると云^{ヤマテ}永^{アイ}小^{アイ}作^{アイ}同^{アイ}容^{アイ}
こそ年^{ヤマテ}季^{アイ}もあ^{ヤマテ}前^{アイ}より入^{ヤマテ}来^{アイ}ると付^{ヤマテ}地^{アイ}元^{アイ}村^{アイ}より取^{ヤマテ}上^{アイ}るとの相^{ヤマテ}成^{アイ}ぬ
法^{ヤマテ}あり又^{ヤマテ}請^{アイ}山^{アイ}と云^{ヤマテ}他^{アイ}村^{アイ}の山^{アイ}を年^{ヤマテ}季^{アイ}を限^{ヤマテ}り証^{ヤマテ}文^{アイ}を入^{ヤマテ}る何^{ヤマテ}箇^{アイ}年^{アイ}季^{アイ}も
極^{ヤマテ}め山^{アイ}手^{アイ}米^{アイ}永^{アイ}を差^{ヤマテ}出^{アイ}し立^{ヤマテ}入^{アイ}ると云^{ヤマテ}常^{アイ}の小^{アイ}作^{アイ}同^{アイ}様^{アイ}とらる

一 畑田成田畑成屋敷成之事

畑^{ハタ}高^{ハタ}の場^{ハタ}処^{ハタ}といへども用^{ハタ}水^{ハタ}掛^{ハタ}り稻^{ハタ}作^{ハタ}と仕^{ハタ}付^{ハタ}て試^{ハタ}み弥^{ハタ}と始^{ハタ}終^{ハタ}田^{ハタ}より成^{ハタ}
るは場^{ハタ}処^{ハタ}をねば願^{ハタ}出^{ハタ}畑^{ハタ}田^{ハタ}成^{ハタ}を致^{ハタ}を然^{ハタ}る処^{ハタ}田^{ハタ}と畑^{ハタ}とを石^{ハタ}盛^{ハタ}り違^{ハタ}ふといえ
上^{ハタ}畑^{ハタ}より田^{ハタ}よりあ^{ハタ}る上^{ハタ}田^{ハタ}の石^{ハタ}盛^{ハタ}と付^{ハタ}け中^{ハタ}下^{ハタ}とも其^{ハタ}位^{ハタ}を持^{ハタ}て石^{ハタ}盛^{ハタ}の違^{ハタ}
ふ丈^{ハタ}け出^{ハタ}高^{ハタ}より村^{ハタ}高^{ハタ}を増^{ハタ}し畑^{ハタ}田^{ハタ}成^{ハタ}石^{ハタ}間^{ハタ}出^{ハタ}高^{ハタ}と記^{ハタ}し年^{ハタ}貢^{ハタ}諸^{ハタ}役^{ハタ}も相^{ハタ}
増^{ハタ}をさるる尤^{ハタ}も田^{ハタ}成^{ハタ}の地^{ハタ}呆^{ハタ}格^{ハタ}別^{ハタ}あり上^{ハタ}畑^{ハタ}成^{ハタ}りて上^{ハタ}田^{ハタ}の位^{ハタ}を付^{ハタ}難^{ハタ}け
るが上^{ハタ}畑^{ハタ}の石^{ハタ}盛^{ハタ}りて差^{ハタ}置^{ハタ}るとり取^{ハタ}箇^{ハタ}の先^{ハタ}づ檢^{ハタ}見^{ハタ}取^{ハタ}りて総^{ハタ}村^{ハタ}定^{ハタ}
免^{ハタ}るるが追^{ハタ}てて定^{ハタ}免^{ハタ}過^{ハタ}り差^{ハタ}加^{ハタ}り去^{ハタ}るとり雨^{ハタ}年^{ハタ}り或^{ハタ}は用^{ハタ}水^{ハタ}の掛^{ハタ}り潤^{ハタ}沢^{ハタ}
こそ余^{ハタ}水^{ハタ}等^{ハタ}ゆる年^{ハタ}の稻^{ハタ}作^{ハタ}と仕^{ハタ}付^{ハタ}け又^{ハタ}早^{ハタ}魃^{ハタ}年^{ハタ}の畑^{ハタ}作^{ハタ}を致^{ハタ}を様^{ハタ}ある場^{ハタ}処^{ハタ}
こそ始^{ハタ}終^{ハタ}田^{ハタ}より成^{ハタ}難^{ハタ}き極^{ハタ}るるが田^{ハタ}の石^{ハタ}盛^{ハタ}り直^{ハタ}るる畑^{ハタ}高^{ハタ}より置^{ハタ}當^{ハタ}毛^{ハタ}田^{ハタ}
と名^{ハタ}け稻^{ハタ}作^{ハタ}と仕^{ハタ}付^{ハタ}るとり出来^{ハタ}方^{ハタ}相^{ハタ}應^{ハタ}の米^{ハタ}取^{ハタ}り申^{ハタ}付^{ハタ}べし又^{ハタ}田^{ハタ}請^{ハタ}の

場処^トも用水^ス多く畑作^ト仕付^ルる分^ト是亦同然^ト畑高^ト直^スる後
と^ノ人^トも畑草^ト木綿^ト或^ハ瓜^ト茄子^ト大根^ト野菜^ト等^ト作^ルるを雑^ト事^ト畑^トと唱^ヘ何
まも勝手^ト作^ル付^レ後^ト令^ハ田^トは作^ルるも畑高^ト直^スるべき謂^ハと^ル定^メ免^ル村
あ^リバ田方^ト定^メ免^ル通^ルの取^カ苗^トと納^メ檢^見取^ルる^ハ田^ノ上^ト毛^ト立^ル合^付け^テ
を定^メ法^スる^ハ然^モとも早^ク損^傷場^トも一向^ト用水^ト掛^ラら^ズて是^レ非^ニあ^リ粟^ト稗^ト黍^ト
蕎^麦等^ト仕^付る^ハ勝手^ト作^ルる^ハ多^ク分^トの^ハ昔^ト毛^ト畑^トと名^ケて取^カ苗^トハ作^ル毛
相^合應^スる^ハ畝^ト弁^トの^ハ弥^ト始^ト終^ト用^ル水^ト多く^クて田^ト畑^トは成^テ難^キ由^ト願^出る^ハと^ルた^レ
吟^味と^テ遂^ニ上^田ハ上^畑の石^盛直^シ中^下も其^位通^ルる^ハ石^盛と^テ直^シ
高^ノ減^ジる^ハ分^々田^ト畑^ト成^テ石^盛違^ハと^テ高^内引^テ相^立べ^シ又^ハ下^畑下^畑畑^ハ
と^テ屋^敷成^テ願^ふと^ルハ屋^敷の石^盛直^シ出^高より^ハ併^シ新^屋敷^ト
を差^障等^ト為^シと^ルれ^ハ及^令障^ハら^ズとも四^録引^テ相^立違^ハと^ルゆ^ヘ檢^地

以後^トの屋^敷成^テ容^易に清^難き^ハ付^其河^内の^ハま^まと^ルり
但^シ畑^田成^出高^ノの^ハ及^令上^田五^反歩^石盛^十と^テ高^五石^田成^成
り上^田と^テ五^反の石^盛の^ハ五^反歩^と高^七石^五斗^成或^ハ石^五斗^の増^シ
高^ノ付^村高^ノ外^ハ高^式石^五斗^畑成^出高^ト記^シ年^貢高^役と^テ村^立
は掛^ル又^ハ田^ト畑^トは及^令石^五斗^高掛^ル付^村高^ノ内^諸引^物の
所^トて高^式石^五斗^畑成^石盛^違引^テ記^シ年^貢并^テ役^高の^ハか^らる^ハ高^ノ
役^々引^テと^ルり
一^田方^トも用水^ト掛^ラら^ズて畑^ト願^スる^ハ節^々を^ハ上^方ハ田^畑米^取の^ハ取^苗減^ル
ま^まと^ルて六^反の敷^トもあ^リれ^ドも関^東ハ畑^方永^取付^根の^ハ永^取の^ハ致^ス
さ^らと^ルり^ハ既^ハ下^總國^行徳^領山^野村^高或^ハ百^石の^ハ外^料所^私領^分郷^ト
て私^領ハ秋^山十^石工^門往^古より^ハ知^行処^ノの^ハ処^前ハ田^畑米^取料^所の^ハ方^々

改正地方凡例録 卷之四上石田

外並畑を永取らる然る処元禄年中上知し成し即一村同様永取し成り
其後行徳領検地ありて割付ハ一本に成されども金議の上十石工門上
知の分ハ往古より米取ハ竹先規の通り又々米取ハ相直りより斯の如
きことありとハ木田の分とへ米取の場処々容易ハ永取ハ成難し況や
前々田方米取の分と用水多た故に畑も取米の減るハ格
別永取ハ致しぐく故に私領より上知しあるところハ容易
ハ永取ハ致し間敷より然るども田高の内ハ入田の姿と残し置畑
成の名目より私領の内ハ其家々の仕来を以て永取ハ致しハ苦し
ざる由尤も若し上知し成るる即ハ其断と申立て引渡さるべきところ
一石間出石之事

是々郷帳割付等ハ石間出石と云て高を増し名目と記せり又畑田

成出高と記し高を増しなりと一事兩名あり石記せり畑の石盛
直とゆへ其石盛の遠ハ丈の高を増し石盛との間より出高故
石間出石と唱ふあり引物の処と石間引と記しるもなり是即ち田
畑成りて石盛遠ハ高減ると高内引ハ致し石間引とも記せり

一新屋敷新宅取立之事

諸國在る百姓在来の住居の外自今新規の家作りと云ふは一家の
内子孫兄弟多く或ハ病身の者等より同居成難き訳ありハ一屋敷内
へ小屋構とて差置たる格別田方野方敷林等ハ用き新屋敷新宅等
取立ると堅く停止の旨享保七寅年相極る尤も扱子細りて新
屋敷新宅成り出茶屋等と取立てり寂寂差障り等ふらねハ願出屋敷と
受たき旨と極るる処近年ハ極る成り新屋敷の分ハ願出きと在

来の屋敷内ハ新規ニ家作と云ふは其時手次弟苦しむるに依りて其様
ニ心得百姓ハ勿論村役又ども遠心海遠を以て新宅取立と相願ふべし
て家作するに成りて新屋敷と云ふ及むは新宅取立の儀も願ふべし
を決して成るに成り勿論下畑下畑見取場野方林等と新屋敷ニ致
せざ上畑並り反取直り益助もれども取寄の田畑日陰ニ成作も障
る段跡へ出さば及令家作の事ありとも取拂さざる苦あり然もども
故障と云者も家作せざる前障の筋と申出さず其儀あく他人の准
儀と首さる段と不埒は付双方とも相當の申付格別不埒の儀もれ
が家作取拂は相成ざる様吟味詰然るべき昔其筋へ承り合せたる処右
の挨拶あり若し右体の出入り其心得を以て取計ふべきと云り
一往還道を替へ事

五海道と云ふ及び往還筋其外村内道筋より古来より在來る処
の古道に潰し私に新道と付するに停止の旨是亦享保七寅年相定り
り尤も耕作の勝手家居住來の便利に付新道と立寄して成るに筋
もろく願出たる上差圖と受古道と止め新道と付べし何と云へども
願ふしむるを成さるるなり

一屋敷内新祠建立之事

新規の寺社と取立るに前より停止あり居屋敷内へ新規ニ小祠等
と建立するとも表立てへ決して相成らざる由天明三卯年武州備前
臺村名主長藏儀実父の庶所と祠より一具号と申受望して便と以て
吉田家へ相願ひ伊賀鐘靈神と云神号并に四組木綿手紙の許状下さん
しに付支配代官より其助へ内く相尋るる処右体の儀へ決して相成を

料の法もあつて早と吟味とて奉行処へ差出さるべき旨挨拶又付
右長蔵へ申渡しし處驚き入早速許状と吉出家へ返し祠ハ破却り
表向に成らばとて済む然る上も自分の居屋敷内は勸請の他
へ一切拘りなくも新規の祠等と立ちし堅く相成さるの近例は付
此心得りて人きとる

一 新地建立引寺之事

寺社建立の儀往古ハ歸依次第何程も建立りしあらざり徳川時代
成てハ新規又寺社建立の儀料所私領とも前より厳き制禁は成る然
どこの寺号を引ハ苦しく既に先年深川吳運院ハ下總國印旛郡總
深新田に在る寺号を以て新地建立りし然る處宝曆十三年以来
を引寺号も新地と取立ると容易に成らば潰寺再興ハ差障りお

此ハ相消由小社も新規に取立る儀ハ致を間敷く関の近年武州
埼玉郡真福寺村地内日光海道草木の下より前より小社あり風と流行
出し松木大明神松尾大権現とて勝手次第の神号と記し懺等と立て
衆諸群集のくは付異変のて有之我も覚束なく支配代官より奉行処
へ相伺する処左の通の附紙あり

附紙

書面衆請の者有之ハ住処名前承り札可申立旨申渡置るべく其
上押て致衆請者有之名前相知り可被申内

子九月

右の趣に付衆請も止む懺等取拂ひ前々在来る小祠のて残し置不後若
し心得違の者ありて新規の寺社取立ると於て地面取上の上谷め其

所名主組頭も同法の由り然るは於て々小社小葬よりとも在来り再
真ハ格別新規取立のてん決して相成ざるなり

一 地境川瀬附寄之事

山境々峰限り谷限り水落境川ハ水流の中央々境立る古法々々とも
併一際より極めり古来より山の両側裾野々々地内境相立り
場処もり川も中央境々々々々水面残らば此方より向の水際々境
々々々々場処も稀々々々官庫の繪圖水帳或ハ古き証書物等々々々
其通りは相定り川附寄次第水流中央境と云ハ大水等々川瀬
替り及今ハ東の方と流々々川筋西の方へ水押込み西村の地処の内
川筋成り東の方の川筋ハ陸地と成て元の川床ハ勿論西村の地同容
東村ハ附寄々々西村の河原ハ云々及々見取場小物成場林場平地野

地等々々も高外の方ハ附寄次第々々東村の地と成り水流中央境成
る定法々々尤も西村高内の地処附寄々々々々東村へ取て成難く
川と越て東村の内へ飛地々々々々西村より進退致々々々西村の古
高減々々々附寄次第ハ成々々石の通り大水等々自然と川筋
遠々々々附寄次第々々々々若し人カ手段と以て川除等の仕方
川瀬の違々様相巧々川筋と違々々々ハ附寄次第ハ成々々
吟味の上境と定むべし依て川筋の内廣大の新堤或々川除大出し木等
と新規ハ仕出々々々々制禁るなり

改正補訂地方凡例録卷之四上畢

改正補訂地方凡例録卷之四下

高崎

大石久敬士恭著述

古今租稅之事

租稅と云ハ俗ニ取直成箇物成年貢を唱田畑より納る貢物の下
 ありて之を兩稅と云即ち秋糧夏稅之あり皆此秋糧と云を秋成とて田
 の年貢と云夏稅ハ夏成とて畑の年貢と云之を園東とて夏成と稱す
 之より上方とて三分一銀納と稱し奥州方今五國とて半石代と稱
 し甲州とて大切小切と稱して何れも畑年貢るれども園東のみ夏成
 と唱へ夏分とて取立る余國に於ては秋成即ち秋糧と同一之を取立
 るとて又西國邊とて表石とて中古を表石とて取立し由るれ

田租沿革誌
 別録了り奉親
 桃原漫筆
 莊園部
 卷之二

ぐも當時々 日本國料所私領の差別あり表しと取立るをふし尤も小
 給所をどゞて小物成と同様、菴麦胡麻小豆等と取箇の外は貢敷の定
 めりて納るもなり在大豆の料所私領も正在大豆又の代水もて小
 物成の外は取立をどゞ之を定法なりて代米と渡し買上り同然るも又
 漢土先王の代も井田の法行はるると雖も彼國も連綿せしとて
 てらぬく租税の法を其代毎に異同あり 本朝は上古も井田の法行を
 ば如何ある租税の法成しや未だ之を詳しきは第三十七代
 孝徳天皇大化年中の比唐朝の制租庸調の法に倣ひ我 朝も之を租税の
 法定せりと然もどり中古に至り其法廢絶するも及なり
 一租八年貢のてとて今も日段租稻二束二把町租稻廿二束田賦為租段地
 獲稻五十束束稻菴得米五升とらりて此積りてとて二百六十歩と一反

とし此稻五十束より一反束の米を五升充よとて米貳石五斗なり其内
 貳束貳把此米一斗一升と年貢は納む之を當世の積りて引比きハ先一
 反も米貳石五斗と四斗入は積り六俵余は當りて一反の米を六俵余取
 まする此故るも然もどり苗様ある田も當時甚ど稀なり諸貳石五斗を
 叙は直せむ五石なり元來石高を叙の石敷を直は高はあるも人當
 時五分取の高は比較して五石と二は割と高貳石五斗は當りて石盛廿
 五は成壹斗壹升の取米もて免四分四厘は當り又反は當時の壹反を
 十五の石盛よとて積むハ七分二厘二毛余なり勿論上古も高石盛の砂
 汰るも稻の束敷を以て租税を積りてねど當時もを引合ざる苦るも尤
 も古へ租も年貢庸ハ夫役調を布帛と納り年貢の外は納め物なりし
 と今ハ租庸調とも一よとて米を納るも人年貢も高く成苦るれども

古より小物成高掛りと云々のもふし然らば古の租税と當世の五分一
也當らば至て緩成てらるり其後第四十三代

文武天皇の御宇海内六十六州に分り國郡の名悉く定り大宝年中律令を
撰むをらば租庸調の法并に度量衡定りて租税の法を慶雲三丙午年
九月遣使七道始定田賦法町租稻十五束及點役丁と續日本紀より
是が町租廿二束より又減少せり唐代より丁男一人田一頃渡粟二斛
用たる粟の字ハ漢土とて叔の稻二斛と出るとりる頃ハ我朝の町
丁とて去の畑又作るハ粟の字より稻二斛と出るとりる頃ハ我朝の町
丁より丁男ハ正丁とて廿一歳より五十九歳迄の壯ある男より粟叔とて
壹町四石とわが凡此方の反租壹斗壹升と等きものなり又宅地の租と
田地の租より軽く納ると先王の制より我朝より京師の民人地租と
出るとりハ第五十三代

嵯峨天皇の御宇弘仁式より上田一反地子十束中田八束下田六束下田二
束為地子と云々の平均とて稻六束七把半一束米五升と見て一反の
地子三斗三升七合五勺と當るハ古への田地の租ハ壹斗壹升より却て
余計あり然るに天正壬午年逆臣明智光秀織田信長と京都本能寺に
於て弑し京師の氏と歸伏せしめん為に翌十一年未年洛中の地子と免許
すと豊太閤光秀と誅し海内一統せしうと光秀が政跡は因循して地租
を其後許し置其後徳川氏海内一統かりて京師ハ勿論江戸京大坂奈
良堺伏見等總て都會の地子と許すと云儲上代より保元平治の頃迄ハ
其農分を以て國侍と云て武士も農民同様常ハ耕作と營み大番とて
禁廷へ勤番し國々ハ國司を置其家より任國のりて當時の様は諸侯國
々ハ分裂せり郡縣の世とて日本全國悉く

緩らるる今五公五民と成るる其発りの詳らあるれども中古より叔
納めりて之を米と直せば則ち五分取は成り付五分取と云は傳來の説
あるべし四公六民と云は慥らある書はハミミハ享保年中色取檢見と
云と始りしより一統五公五民の法屹度定りたることと云々

一和漢とも古代も其農分は武士も田舎も住て農事と務め軍事の事ど
分限の度軍兵と出を漢土ハ唐の代より兵と農と分るを始り明代は
至て天下の民と二は區別し兵と業と分るを軍と云農を務るりの民
と稱し民より軍に入るをあるべし又軍より民に移るを禁じ天下の
人種と二は分り本朝より中古の武士を皆農夫とて今の世の郷
士より元亨建武の戦國以後ハ其農分を其地頭百姓と成り租税の法も
四公六民と成り今も遠國よりハ其農分は上古の如くある処は

り其二と云ハ薩州ハ外城とて四十八箇所の城地あり一城ハ武士多
きハ七八百騎少きハ二三百騎又外城附子力の侍あり世々其地は住で
常ハ農業を勤む又外城を守る首將ハ三四千石より一万石以上より其
外と領するものあり又ハ勤番ものあり此侍ハ在処鹿子島なれど武士一通
り外城附子力の侍ハ孰も其処の百姓同然なり又肥後國より一領一
匹と唱へ一騎役の士数百騎あり又地侍とて歩卒数百人在り無禄は
て居住し農事と營み軍の即ハ軍役と勤む又筑後國より浪人と唱へ平
士の格を常ハ農業医術或ハ商賣又ハ諸藝の師範を以て自勝手の
家業を営み武事とハ掛无禄とて在り居住し事あるとハ八分限相應
は騎馬又ハ独歩より出張し夫身あるものハ十騎廿騎より軍役の定
あり兵卒と出を又肥前國鍋島家より千人足輕とて城下を離る督振

山下に住て平生農事と務め筑前境の番手あり又赤司党と云郷士数百
人筑後境より耕作植業を営み筑後押の番兵あり又日向國より淳
世人と云る農兵數多あり又土佐國より長曾我部の類業三百余人皆郷
士として領主に隨從と之を一領具足と云又大和國吉野宇陀郡邊に於て
郷士ども皆武術を嗜み常の農業山稼等より渡世とするものあり此外遠
國斥部より此類多るべし是皆古へ其農分を以て以前の遺風あり關東
より八王子千人同心の外農兵ありて之を因らば又漢の代は趙充國と
云人屯田の法と始め邊塞を守り番手の兵より平日の耕作を為しめ事所
るとは兵とふりて用ひしより石の丁より今遠國に在るは其士を置耕
作と務めさせ隣國の押へ又と事あるとらへ軍役と勤るは屯田の遺法
として戦國の余習あるべし又熟考するは第四十三代

文武天皇大寶年中唐朝の律令を倣ひ淡海公律令を撰み玉ふ其令より永業
田口分田と云り永業田は民家より持傳ある田地として之を賜田と云ひ
子孫累世之を所持を口分田と云へ男子廿歳より口分田を賜り六十
歳まで之を耕作し六十一歳よりして
朝廷へ返納を又公田と耕を民と良家と云是則ち武士より止税より一町の
田より米壹石壹斗を出して外は徭役と勤む私田を奴婢耕し其田の米
を殘らば主人の物と成り奴婢は口分米と去りのと取て是より租税
を出さば良家の口分田より二反充奴婢の口分田を其三分一より其農と
分ちて今令の百姓は奴婢の類あり其外位田職田蔭戸の石數等ありと
も後世用ひきるとして既に律令に替り古の律令は王政の世より用ひ
武家の世と成ては律令に廢り鎌倉時代より貞永の式目を用ひ足利氏

至てハ又此式目々用ひ別々法令と立り然るは戦國は成てち
 法律も變絶し徳川時代は移りてハ法令又ハ年貢夫役等の法悉く變り
 右も記さず中古石高以前ハ年貢も納め知行高も石数の
 直し用ひ其頃をハ砂金のころ民間は金銀の通用なく交易も
 錢計りて用ひる由り時代の相移るは從ひ古代の年貢のころ
 今も何の見合せより成難しといふも古と知れれ今も行ひ
 難きものも租税の濫傷大際記し置めり
 一庸も夫役も人夫と田地の高掛て出さるる元田地より
 年貢と出せど外は何も出さるる古の和漢より無
 ころ公役の人の数りて出さるる先王の制ハ男ハ廿歳より五十九
 歳まで四十年の間一年は三十日充人夫と使ふ又唐代は至り租庸調の

法も之は准ハ我朝の古令は天下の民廿一歳より六十歳まで正丁
 と云て一年は夫役十日使ふと正役とを外は加役二十日使ふを加へ一
 年一人の夫役四十日の定より何と云ふ其身と夫と使ふ若し夫役よ
 使はざれど其代り布と出さるる庸と云一人前一日布一尺六寸と立
 て正役十日より二丈六尺壹反と出さるる次丁ハ或人合せて正丁一人役を
 勤む若し之を勤めざる時布も其割りと出さるる次丁と云ハ男子六十以
 上の老人或ハ壯年の男子も病痾等なりて一人前不足らぬ者と云
 文武天皇の大宝の令も歳役之庸布息人民之宜減半と云ハ此時より
 或丈六尺の庸布を半分減せりといふと見へり使役の日数の古今替る
 正免ハ其農分も以前軍役歩卒の外の百姓の使方と見
 えり人全家の世も令よりて國々夫役の使方も定り有しと云武

家の世と成てわ夫役の定免もあつて況て戦國以來徳川時代は移りて古への庸法は似り付む人夫の使次第は成りたり去るもの人夫を使ふに大切あること多し元賃の人馬を使ふに一人一匹ありしは朱印証文を以て之を使ひ根は使ふと禁せし近年に至ては在り堤川除用水普請寺の人夫の出方ハ百石は付五十人々村役は差出し五十人々扶持米とて人足一人は一日米七合五勺充て渡を其餘の人数ハ幾千人より賃米人足と唱へ一日一人前米壹升七合充賃米とせし定法あり私領とて其國々の仕来りりて使方扶持米賃米等の首數不同なり又徳川氏の臺処は使ふ人足と前ハ賄方より人数割りりて村より人夫と差出しし由夫りりて不便利はゆりり又村々難裁りり故高百石は米式斗充と掛て在りより出さるを以て人夫と抱へ陸尺

と名付て仕し之を六尺給米と云備又領主地頭軍役りり京大坂駿府在番寺は當り或ハ屋敷焼失等の愛りり即領分知行の人夫と呼寄て使ふ其代りは高百石は付金三兩充臨時は差出させし之を夫金と云此外は私領りり六尺給米りり人夫夫金とて高はかけ米永くと定納り取立るもりり尤も前引付の首數定りりり高掛りり其処は寄て多少の不同りり右の數品々大數人夫の勤高は定りり有るれり其外の公用りり使ふ人夫々定數あし尤も往來の人馬助郷人馬等の首數も定りりり賃錢も取ら付百姓の失費ハ格別前記を庸役とハ別段たり上古正役加役は使はざるは差出は庸夫ハ何きの頃より止たるや又田地の石高は掛て人夫と出さるの發りり是は何頃より始りりりり濫觴詳々あり近世ハ料処地頭の庸役の外歇場近き村ハ助郷人馬

近世ハ料処地頭の庸役の外歇場近き村ハ助郷人馬

よ使れ村用^{ツカ}使ひ彼是古^{カレコ}への十倍^{トイ}の夫役^{ブヤク}成り^{ノセケウ}農業^{ノセケウ}と勤むべき暇^{ヒト}
ゆるく元^{モト}より無人^{ムネヒ}の百姓^{ヘイシヤク}の度^{タク}夫役^{ブヤク}は出^デて^テ耕作^{コウサク}も成^ナら^ズ夫^{ツレ}もえ
是^{ゼヒ}非^ヒらく日雇^{ヒヨウ}と出^デし或^{アル}へ村役^{ムラノセ}人^{ヒト}へ價^{アダイ}と出^デし之^{コト}が為^{タメ}に在^{サイ}くの困窮^{コンキョウ}益^{マセ}
美^カへ^クく^ク之^{コト}は加^{クハ}ふるは自分^{ジブン}稼^{カシ}の節^{セツ}後^{ノチ}も耕作^{コウサク}の修理^{シユリ}疎^ソう^ク成^ナり
作物^{サクブツ}の出来^{クハ}も劣^{オホ}り年貢^{ネンキョウ}も減^ヘじ民^{タチ}の損失^{シツシツ}少^シあ^ラず^バ果^{ハチ}へ退^{タイ}轉^テよ^ク及^ツぶ百
姓^{ヒャクシヤク}も^テり^テ手^テ余^アり荒地^{アチナ}等^ナり出来^{クハ}地頭^{ヂチウ}の不^フ益^{エキ}又^カ輕^カう^クなる^{コト}も^ナれ^バ人
夫^{ツレ}の使^{ツカ}ひ方^{カタ}の能^{ヨシク}く^ク心^{ココロ}を^ツ用^{ヨウ}ふ^{コト}も^ナ専^{セン}要^{ヨウ}なり

一^ニ調^{テウ}々^{ツツ}年貢^{ネンキョウ}の外^{ソノトモ}品物^{シモノ}も納^ナる^{コト}課役^{ケツヤク}より今^{イマ}の小物^{コモノ}成^ナの様^{サマ}成^ナるもの^ナ不^フ
り調^{テウ}の^{コト}と^シ令^{レイ}は六^{ロク}凡^{ボウ}調^{テウ}絹^{クヌ}綿^{ワタ}布^ヌ并^ナ隨^ズ郷士^{キョウシ}所^ノ出^デ正^{テイ}丁^{テイ}壹^{イツ}人^{ニヒト}絹^{クヌ}綿^{ワタ}布^ヌ八^{ハチ}尺^{シヤク}五^ゴ寸^{サン}
六^{ロク}丁^{テイ}成^{テイ}匠^{シヤウ}長^{チヤウ}五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}廣^{コウ}式^{シヤク}尺^{シヤク}式^{シヤク}寸^{サン}美^ミ濃^{ノウ}綿^{ワタ}六^{ロク}尺^{シヤク}五^ゴ寸^{サン}八^{ハチ}丁^{テイ}成^{テイ}匠^{シヤウ}長^{チヤウ}五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}
廣^{コウ}同^{ドウ}絹^{クヌ}綿^{ワタ}八^{ハチ}兩^{リウ}綿^{ワタ}一^{イツ}斤^{シヤク}布^ヌ式^{シヤク}丈^{シヤク}六^{ロク}尺^{シヤク}并^ナ式^{シヤク}丈^{シヤク}六^{ロク}尺^{シヤク}成^{テイ}約^{ヤク}屯^{ツン}端^{タン}長^{チヤウ}五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}廣^{コウ}式^{シヤク}尺^{シヤク}

四寸^{シヤク}其^{ソノ}望^{シヤウ}院^{イン}布^フ四^シ丁^{テイ}成^{テイ}端^{タン}長^{チヤウ}五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}廣^{コウ}式^{シヤク}尺^{シヤク}八^{ハチ}寸^{サン}と^シり^テ石^{シヤク}の^シ記^キハ^ニ本^{ホン}朝^{テウ}
の古^コ法^{ホウ}より天下^{テンカ}の百^{ヒャク}姓^{シヤク}廿^{ニヤク}一^{イツ}より六^{ロク}十^{ジュウ}まで正^{テイ}丁^{テイ}の分^{ブン}は年貢^{ネンキョウ}庸^{ヨウ}役^{ヤク}の外^{ソノトモ}
絹^{クヌ}綿^{ワタ}布^ヌ等^ナ其^{ソノ}外^{ソノトモ}の^シ出^デ産^{サン}の^シ品^{シモノ}も依^ヨて取^クる^{コト}之^{コト}と調^{テウ}と云^{イハ}絹^{クヌ}綿^{ワタ}布^ヌは^シ絶^{ツツ}一^{イツ}
人^{ニヒト}前^{マヘ}八^{ハチ}尺^{シヤク}五^ゴ寸^{サン}充^ツ出^デと^シ六^{ロク}人^{ニヒト}より一^{イツ}匹^{ヒツ}と成^{テイ}就^{ジュウ}を^シ五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}より美^ミ濃^{ノウ}の^シ綿^{ワタ}
を^シ八^{ハチ}人^{ニヒト}より五^ゴ丈^{シヤク}式^{シヤク}尺^{シヤク}一^{イツ}匹^{ヒツ}と成^{テイ}就^{ジュウ}を^シ綿^{ワタ}を^シね^バ一人^{ニヒト}前^{マヘ}八^{ハチ}兩^{リウ}二^ニ丁^{テイ}より十^{ジュウ}
六^{ロク}兩^{リウ}一^{イツ}約^{ヤク}と^シる^{コト}綿^{ワタ}を^シね^バ一人^{ニヒト}前^{マヘ}一^{イツ}斤^{シヤク}二^ニ丁^{テイ}より二^ニ斤^{シヤク}一^{イツ}屯^{ツン}と^シる^{コト}布^ヌを^シ
ね^バ一人^{ニヒト}前^{マヘ}二^ニ丈^{シヤク}六^{ロク}尺^{シヤク}二^ニ丁^{テイ}より五^ゴ丈^{シヤク}二^ニ尺^{シヤク}一^{イツ}匹^{ヒツ}と^シる^{コト}又^{マタ}次^ジ丁^{テイ}の^シ二人^{ニヒト}より
て正^{テイ}丁^{テイ}一人^{ニヒト}は准^{ジュン}び中^{チュウ}男^{ノウ}の^シ四人^{ニヒト}より正^{テイ}丁^{テイ}一人^{ニヒト}前^{マヘ}は准^{ジュン}び中^{チュウ}男^{ノウ}と^シ云^{イハ}ハ十六^{ジュウロク}
歳^{サイ}より廿^{ニヤク}歳^{サイ}までの男^{ノウ}より此外^{ソノトモ}は又^{マタ}雜^ザ物^{モノ}と^シ云^{イハ}め^テの^シち^ニて^テ鉄^{テツ}茶^{チャ}酒^{シュウ}漆^{シツ}紙^シ炭^{タン}
薪^{シン}油^{ユウ}蠟^{ロウ}百^{ヒャク}菓^カ種^{シュウ}鳥^{ニウ}獸^{ジュウ}魚^{イサ}鼈^{ヘビ}羽^ウ毛^{モウ}皮^ヒ革^{カク}の類^{ルイ}其^{ソノ}國^{クニ}其^{ソノ}土^{ツチ}地^チの^シ産^{サン}物^{モノ}と^シ正^{テイ}丁^{テイ}一人^{ニヒト}
より約^{ヤク}む尤^{モト}も其^{ソノ}出^デ産^{サン}の^シ品^{シモノ}の^シ十^{ジュウ}分^{ブン}一^{イツ}より又^{マタ}調^{テウ}の^シ副^ソ物^{モノ}と^シ云^{イハ}て紫^シ菫^{キョ}木^キ綿^{ワタ}菜^{サイ}

物海藻等と品と出をり之と合せて共調と云是則ち和漢とも古法
ちり右調庸の品の毎年八月中旬より其処より起輸して近國の十月晦日
を限り中國の十一月晦日遠國の十二月晦日迄は大蔵省へ納む調の家
別の納年貢するもの之と戸調と云然れども押立て家別に出るもの
は家より課戸不課戸と云るより正丁以上の課戸なるを課戸とし又ふ
きと不課戸とい調の課戸計り出し不課戸の出さば令云戸内有課戸
者為課戸無課戸者為不課戸と令義解云不課戸を謂皇親王及八位以上
男年十六以下并蔭子者及疾妻妾家人奴婢と云るは歴々の人又は病疴
りる者女奴婢等と不課戸と云此外正丁の分を課戸と云て調物と出を
りる貢物の漢土より賦税の外よりと見ゆ禹貢は諸州厥貢と云
り唐代はとも其通ると云る 本朝はとも國々の貢物と直調の

内に入て租庸調の外別一貢の名あり其内右より云雜物と其定りたる數
程出せば絹布の類へ許さるる見ゆ調の副物へ調の絹布の外は數
品と出をり見ゆ調布とカククリと訓土地の產物あり調の品目令は
詳らるれども今世不用のてゆへ其際畧と記ひ今小物成と云て其國々
の產物代と金銀とを年貢の外は納るへ調の遺風あるべし

一 夏成金發之事

上古漢上りてり兩税と稱して秋糧夏税と田畑の租税と夏秋に分け秋
糧へ田の年貢と即ち秋成とし夏税と畑の年貢と今夏の夏成金也
本朝夏税の始りの第五十三代
嵯峨天皇弘仁二年卯年管清公 麻呂僧空海 勅し玉ひ賦税徭役の
と改正し玉ふ此時より夏の表を以て正税のぞく納めしむ是故上古と

遠トホひハク稅ハク法ハク重ハクくハク成ハクてハク民ハクのハク衰ハク弊ハクとハク起ハクきハクとハク去ハクりハク是ハク夏ハク成ハクのハク始ハクまりハクとハク去ハクりハク關ハク東ハクのハク夏ハク成ハク上ハク方ハクのハク三ハク分ハク一ハク銀ハク納ハク與ハク州ハクのハク半ハク石ハク代ハク甲ハク州ハクのハク大ハク小ハク切ハク何ハクとハクもハク烟ハク年ハク貢ハクるハクれハクがハクもハク關ハク東ハク計ハクりハク夏ハク成ハクとハク夏ハク納ハクめハク余ハク國ハクのハク秋ハク糧ハクとハク一ハク納ハクむハク九ハク州ハクもハクとハク去ハクりハク表ハク石ハクとハク元ハク祿ハク頃ハク中ハクをハク表ハクすハクとハク納ハクるハク處ハクもハク何ハクれハクもハク由ハク令ハクのハクふハクしハク尤ハクもハク關ハク東ハクのハク夏ハク成ハクもハク表ハク石ハクとハク別ハクのハク掛ハクらハクばハク烟ハク取ハク永ハクのハク内ハク々ハク夏ハク納ハクるハク由ハクもハク夏ハク成ハクとハク去ハクりハク余ハク國ハク秋ハク成ハクとハク一ハク納ハクるハクはハク遲ハク速ハク何ハクるハク迄ハクもハク關ハク東ハクはハク夏ハク成ハク何ハクれハクもハク取ハク箇ハクのハク強ハクきハクりハクをハクいハクふハクしハク然ハクとハクもハク表ハク石ハクのハクふハクしハクとハク國ハク々ハク一ハク體ハクのハク取ハク箇ハク秋ハク糧ハクのハク内ハク々ハク董ハクうハク古ハク制ハクとハクいハク大ハクはハク遠ハクてハク強ハクくハク成ハクるハクれハクがハク秋ハク糧ハク夏ハク稅ハクとハク一ハク季ハクはハク納ハクるハクもハク關ハク東ハク夏ハク納ハクめハクりハク同ハク然ハクるハクりハク弘ハク仁ハクのハク古ハクりハク別ハクはハク納ハクるハク様ハクもハク何ハクれハクもハク上ハク古ハクのハク租ハク稅ハクとハク至ハクてハク輕ハクくハク當ハク世ハクのハク取ハク箇ハクはハク比ハクべてハクとハク半ハク分ハクもハク及ハクばハク何ハクれハクもハク夏ハク稅ハクはハク納ハクめハクるハクもハク民ハクのハク煩ハクはハク成ハクむハクのハク一ハクのハク有ハクまハクとハク去ハクりハク夫ハク々ハク人ハク民ハクのハク衰ハク

弊ハクとハク起ハクきハクとハク誅ハク罰ハクしハクたハクるハクもハク人ハク々ハク然ハクとハクいハク今ハク世ハク賦ハク稅ハク備ハク調ハクのハク重ハクきハクハハク民ハクのハク衰ハク微ハクとハク成ハクてハク尤ハクもハク多ハクくハクもハクズハクシハク

一 三分一銀納十分一大豆銀納之事

附上方の關東より二割増之事

上方筋スベの田畑米取定免テクマンハ去キり及キばキ檢見取ケンケンをキもキ畑ヘの定免テイマンをキ免居ケンケンり取米の教定ケウテイりキ尤モトもキ木綿畑モクワタをキ年々ネンネン檢見ケンケンりキとキいキへキどキもキ畑ヘの米コメをキ免めケンケンへキ田畑總取米テンゲツクミとキ三ミ割ワりキ一ヒト分ブハ石代銀納イシダイギンナウとキ成ナるキ之ノとキ三分一銀納サンブツギンナウとキ去キりキ則スレバちキ畑年貢ヘンキョウもキ併シしキ畑取米ヘンキョウの負數フスウはキ檢見ケンケンりキ畑總取米テンゲツクミの三分一サンブツとキ銀納ギンナウとキ然シカるキもキ依ヨリてキ畑米ヘンキョウとキいキへキどキもキ銀納ギンナウもキ何レもキ關東カンとうの畑永取ヘンキョウもキ同ドウ然シカるキもキ石代直段イシダイチキョウ古米コメハ米壹石銀四十八匁イシトクギンヨウジッパウモン替カの定直段テイチキョウもキ何レもキ保年ホネン中ナカよりキ外石代ガイシダイ同様トウガウ其年シネンの上米平均ウヘミヘンキョウハ何レもキ増マシとキ定法改テイホウカイりキ其直段シチキョウをキ以モてキ

勘定処へ伺ひの上三分一直段と極るる

一石四十八匁替は極るる發りの関東武石五斗代は對用の積りたる始
いたる米壹石銀四十八匁の直段は永壹貫文は壹石五斗五升替は當り
を別ち畑永武石五斗代は對用は其故は武石五斗代は田畑同重を得る
飯直段より上方関東速國より畑方六分違の定法より武石五斗の六分
々壹石五斗とある是則ち関東畑永の定直段より上方は田畑より土地
宜きゆへ大緊武割増より米直段より上方は関東は二割増の積りより
壹石五斗五升の壹石五斗は二割高より上方は関東直段との釣合より
又出羽は方今二國奥州は方今五國と上方を一倍の違ひ奥羽は全上の武百石
を上方の百石は對用するゆへ半石半永の安直段より石の割合より見え
を國より劣り優りより田畑同重とて過不足なし

一上方より元米廿貫百石の積りより發りよりとソムどり上方は田畑
米取りを其内二カ一を畑年貢の積りより銀納はあるゆへ畑の収取米
武拾五石と三は割り其一分即ち八石三斗三升三合三勺三才と實とし
残りの二分即ち十六石六斗六升六合六勺六才と法より除く五と成
る之と元米廿五石へ乗け拾武石五斗と出るゆへ畑高五十石は永高十
貫文の地より右十武石五斗と永拾貫文と對用するより永壹貫文は
米壹石武斗五升は當り是三分一銀納の發りより又直段四十八匁替は
極りし畑取定相場壹石武斗五升より發る是は公納銀相場六十匁と
實とし壹石武斗五升を以て除く壹石代銀四十八匁と出るより上方を
總て銀建ひるれば公納銀納より余は六十匁替の定相場を以て銀納
より古米は町相場は六十匁の余より高直あるより村救助の為六十匁

替り定り民大^{レニシテ}潤沢せし処今ハ通用銀六十匁の内ハ多分入^ルる^ルハ
六十匁の定直段^{ナルコト}ハ却て下^ルの難義^{ナシ}と成^リ其上享保以来三分一銀納直段
四十八匁替相止み時相場^ハ成^ルる^ルが弥^ハ以て下の難義^{ナシ}あり石三分一銀
納の始^メりし時代の知^ルべきと雖^モ民間^ニ金銀の通用せしハ慶長元和比
より^ハの^レより^ハ三分一銀納十分一大豆銀納^ハ極^メり^テ其以後
の^レ見^ヘる^ル

一石上方^ハ関東より二割増^シの積^ミり関東畑永の代り三分一銀納^ニ成^ルる
謂^フを又定直段^ハ四拾八匁^ニ極^メりし^{コト}を^ハ友取^ノ釣合^等ハ左の^レとし

上畑壹反歩

上方

此分米六斗

石盛六箇

此取米貳斗四升

免四箇

此代永百九拾貳文

但^レ三分一直段米壹石^ニ付
銀四十八匁^ハ金六十匁^ハ替

但^レ上方^ニ永と云^フは^レい^ハる^ルれ^ドも^ハ関東^ヘの^レ釣合^ノ為^メに
は永^ニ付^ルる^ルの^レなり

上畑壹反歩

関東

此分米六斗

石盛六箇

此取米貳斗四升

免四箇

但^レ関東^ニ畑米取^ルる^ルれ^ドも^ハ田畑^ニ厘^と付^ルる^ルより^ハ根取米^ヲ
くて^ハ成^リ難^キゆ^ヘは永^ニ米^と付^ルる^ルなり

此代永百六拾文

但^レ畑米永^ニ實直段金壹兩
は米壹石五斗^ニ替

石上方^ニ取^ルる^ル米^ハ三分一^ニ直段^ハ四十八匁^ニ乘^ケて^ハ代銀拾壹匁五分^ニ貳
厘^と成^ルる^ル銀相場^ハ六十匁^と除^シし永百九十貳文^と得^ルる^ル又^ハ関東畑反

取貳斗四升と美直段壹石五斗と除り代永百六十文と成る此百六十
文は貳割増の一ニと乘をバ百九十文と成るより関東金相場六十文
へ貳割減の八と乘をバ四拾八文と成り何れも関東より上方を貳割
高の勘定する

一十分一大豆銀納と云々大豆の直段と書出し伺の上極る処も有り前々
の引付とて定直段の場処も有り総取米の十分一と大豆銀納は石代
と納む尤も引付とて村より正大豆と納るも有り大豆銀納正大豆
納むる村方も有り石三分一銀納十分一大豆銀納引残る米納り成る
るり又村は依て訳りて定石代銀納の敷定り米納の内銀納は成る村
も有り或八年より不熟青米等多く上納米に成難く願石代を其敷
と極て銀納に成るも有り借亦粟米成難き場処又ハ皆畑等とて皆銀

納の村方も有り前々仕米とて色々の納方有りとも有り石三分一銀納
と云々上方中國西國とも平均と云々大方田方三分二畑方三分一程の
積りとて以て斯のて極るも有りとも有り上方の三分一銀納関東ハ
畑方永取と云々の古へ何時の比より始りしとて一向知とされども古
来より相傳りしと云々べし

一諸國石代直段之事

附貫代之事 甲州雜穀直段之事 石代定書之事

諸國租稅石代の儀ハ古きとて其始め審らるるは上方の三分一銀納
関東畑方永取貳石五斗代奥羽共田畑半石代甲州貫代大切小切と
總て古き遺法なるべし諸國とも古来より極り今は用ゆる石代直段の
大緊と左記を何れも往古貫高永高時代の遺法あるべし何の比

諸國石代

始知

下野國

宇都宮領

金一兩二米三石代
但し畑方永取

田畑六分遠く
実直段一石八斗二升

陸奥國

方今陸前陸中岩城岩代陸奥の五國一分割せり

金一兩二米三石七升武合
但し右二同じ

内実直段一石八斗四升三合
二升

石川郡

金一兩二米三石武斗代
但し右二同じ

内実直段一石九斗武斗二成
二成

白川郡

金一兩二米三石五斗代
但し右二同じ

内実直段武石一斗二成

仙臺領

金一兩二米五石代
但し右二同じ

内実直段三石二成

伊達郡

金一兩二米七石代
但し右二同じ

内実直段四石武斗二成

信夫郡

福島領

出羽國

方今羽前羽後二國二分割せり
金一兩二米六石代
但し右同じ
内実直段三石六斗二成

置賜郡

米沢領

右ハ何カも田畑米取リと半分米納半分右の安直段トと石代金納
ちり之ニ半石半永トと云ハ何カも半石米納の内相場書ノ直段ト以て定
石代願石代不熟青米石代等の金納ト尤も前書の内會津大石の兩
郡代ノハ半石半永の村ノ又四方一五分一八分一金納或ハ皆金納

の村方もゆりまへて奥羽共は土地至て廣大より米穀多分出米を
 ども序部遠境より都會の地少きゆへ國中より米の捌方少く自ら米價
 甚ど賤し然し前書の石代直段の土地の相場より引合を悉く下直極
 ること考ふるに關東畑水石五斗代より類し畑を田より六分違ひ四分
 するれば關東の武石五斗代より實直段の壹石五斗より當る是と等しく奥
 羽上り右の石代直段より六分違ひ米を實直段前書の通りより成り大抵
 所の相場より近きものあり其上遠國庁境より運送ゆへより米者怨と
 以て安直段より金納し成ると見へり書面の國々の外遠國より往
 古引付の石代何程も有べきものども諸國の儀へ悉く知をぐくく傳
 えの大槩を記すものあり

一 甲斐國の田畑米取より石代色より國中四郡の内山梨八代巨摩の三

郡の大切小切張紙直段なり又石三郡上米平均直段なり其内より河内
 領の金一兩より米壹石四斗四升替の定石代直段なり四郡の内都留郡
 内領より田畑米取れども石代を關東並張紙直段より然し極山中より
 船の運送成難き場処ゆへ皆金納り郡内をめぐり山畑薄地多くして
 雜穀の之作る処もれば畑米直段の張紙より三割安と定り其より其年の
 雜穀直段の高下と以て石代直段と極るとあり甲州四郡の内笹子峠よ
 り上都留一郡と郡内領と唱へ外三郡と違ひ諸事關東並より國役金
 も關東より属して依て大小切上米平均直段より少し大小切の訣を左に記す
 但し雜穀直段の極方へ去年の雜穀直段へ當年の畑米直段張紙三割
 安へ乗け去年の畑米直段と以て除り當年の雜穀直段を得るより元
 より大豆粟稗蕎麥等其品限り夫々の直段極り金納し成る候へ去年

大豆石代直段二十五石より付十五兩は當年の張紙四十兩と三割安
より廿八兩と成る之を右の十五兩より乗け四十二兩と成る扱去年
の張紙三十五兩三割安廿四兩二分即ち去年の畑米直段より之を以
て右の四十二兩を除き十七兩永百四十三文と成る之を當年の大豆
石代直段と極る其処の雜穀ハ其品限り夫々の直段の仕出方同
じトス

一 關東ハ畑方永取りを米直より永壹貫文より米貳石五斗代と定法と
以右の貳石五斗代の始りの詳なるは雖も永高時代の遺法と同
古来の諸國一統扱の遺取より年貢の扱納めらるる扱高ハ直より年貢
の納込の外は石高と云わゆる殊に其頃ハ穀物の價賤く永壹貫文
より扱五石と替ると云々の中古米納り成り五合摺の積りを半減

一 米貳石五斗の石代當時關東國より畑永と米直以通法と成き
り茲因て今も永と高と結ぶるも永壹貫文より高五石替の定法なり又
覺書に豊臣時代より徳川祖宗時代へ移り文祿慶長の比は米穀の價賤
く金壹兩より米五石替の定直段より成り其後米價追々貴く半減より貳
石五斗代と成り又貞享元祿の比は弥貴く右の半減壹石貳斗五升代
は命ぜらる依て厘附の爲永と米直よりハ貳石五斗代と用ひ五箇年
平均等とて實厘と見るより壹石貳斗五升代と成るハ此謂る由と記
したるも出所詳ならず前より扱高と半減して米貳石五斗代と定
りたるを扱ひると思ふも何れも永高買高時代より起りたる石代と見
えらく既よ石代と貫代とも唱ふと云々

一 關東米納めの内并は甲州郡内領田米定石代金納り之を張紙直段

と用ゆ又子細なりて定石代の外は願石代として金納をさるるは張紙直
段の上糶増なりて口米寺の張紙は三兩高なり上方中國四國西國北國
奥羽共よとも石代金納なるは其國より米相場と書出を場処五箇
処三箇処充極なりて上米平均直段は何斗高或は何兩増何文増とい
る定法なりて取調べの上石代直段と極め金納はを依とちり此張紙直
段を其國との相場書と以て石代直段と極ることを慶長年間より始りし
と見ゆれども糶増直段等の定格は何も時代より始りしと云ふと詳
しあはれ其頃張紙と城内中の口は張ることも江戸東城築營の時分を戦
國の余風として武士と武術のこゝ染み諸士の内は笑勘と勤る人少き故
越後屋手代どもと城内へ召し中の口はあはれ國との收納勘定等と命
じ中の口は長持一掉置其内は諸帳面と入る其上は其年この直段書と

張置より其後治世は成り武士も美術と心掛け今の勘定役と撰出し
て勘定処と云役処始りしれども其遺風を以て今も三季張紙出とバ中
の口の向ふは張と云傳ふ然ども越後屋手代の城内は出るに審るる
らざる説より案するは中の口を諸士尊卑出入の所なるは諸人見易ら
らん為に古来より張来りしてもあらん

一諸石代の儀は付ての規定書

本年貢米二條江戸東大坂御藏納の節於船中大沢手小沢手更米色替り
鼠喰の類并に米性不宜由藏納は難成り買納等可致善よ小えども左様
こそを納名主等久く致逗留品と入用も掛り小間は米差支無之節は金
納は可申付小石金納の儀は米納國との直段は不構二條江戸上六坂
共其時の張紙直段米二十五石に付金四兩高銀納の場処は右割合を以

改正地方所傳金 卷之四下 二五五

て三分一直段米壹石子付銀五匁高の積りソモくもへく小

但し三分一金納無之定石代有之國々の右定石代と元は立三分一直子

段割ダク合カ通トと以て可ル相ト同ト

一用は付残置小巾物成の内段へ渡残米金納ハ其時の張紙直段と以て

可ル相ト同ト

寅七月

右の書付と年号不明と何の寅と云と詳らるるは併し享保年中神尾若狭守勘定奉行のとき色々政事と改革せし由故多分の享保十九寅年と出する書付あるべき歟

一関東武石五斗代壹石武斗五斗代祭之事

是も貫代と唱へべきものなり石代のところ前祭は委く記せしごとく往古

より國々の貫代定りたる定法なり関東の武石五斗代壹石武斗五斗代と去り年々米相場の高下より均らざるは右の石代を以て納るよりあらば田畑の免何程の村と見るも米ハ其俵姿なるものゆへ其負數を高く除き免り知るごとくはどり永ハ米は直き故してハ免の割り成し難きは依て畑の永納と仮し米は直きと用る貫代より一村の厘と付るる武石五斗代を用ひ五箇年平均厘の高下と見らるる壹石武斗五斗代と用の元米武石五斗代と去り前記を処の廿貫百石五取より祭り高百石の地田方五十石畑方五十石と見て何きも五取より元米廿五石充らり然きどり畑の取米廿五石ハ當りて田畑六分遠と兼け拾五石の実米とふし田の実米廿五石と加へ四拾石高百石とて実を四取られども畑の仮米廿五石と立らるる五取と去古の永高廿貫文と高百石と

しく田畑五分こゝ畑永高拾貫文の米廿五石ゆへ當時永壹貫文と米貳
石五斗代と立くるものあり永高の時代の別は石高より年貢永代と直
は高より用ひたり今も無高無友別の村方の遠國関東共取米代と直り高
は用ひ入夫諸色高掛りの品と取米は掛る外りり越後新田領など
と當時村高と去への取米高と去へ高掛り物も此高より掛る本高のてと
草高と唱へ諸掛り物等への用ひざる由あり又或書は古代金銀拂底よ
て砂金の外小判赤判等未だ始らざる以前下民は金銀の通用あり錢と
米とを以て物と交易し民間の諸用と辨じられり錢は少く方て永樂
錢の弥々貴く米穀の潤沢ゆへ米の價至て賤く永樂錢壹貫文への米五
石を替へ其頃永納の代り地頭へ米と納むる永高壹貫文への米五石と
納る由其後石高格と納米の石數と直り村高より用ひ五分取りとく

米より半分の納めたるゆへ永壹貫文への米貳石五斗と成りしは段々時世
移り替り関東の國も米の價貴く成りしは中古の遺法を用ひ厘と
見る為の直段への金壹兩への米貳石五斗代定法と成り然るも百年
来右の安直段ゆへ實は米の價の大凡と見るは米貳石五斗替の勘定
しとる一向引合ざるは付米穀の價は拘りて貳石五斗と半減して金
壹兩への米貳石五斗代り米を直し田畑と打込て物成の納り高と見
るは之と用るは依て當時郷帳其年の免と付るは畑永と貳石五斗代
の米を直し正米を加へ厘と割り又其年より前五箇年と平均して實の
取箇の免と見合はるは壹石貳斗五升代り米を直し定法より茲は因て
私領渡しの物成勘定は壹石貳斗五升代り米を以て厘と見るとり石貳
石五斗代り永高時代より見ゆるとり壹石貳斗五升代り何の頃より

始りたる時代詳らざるも慶安二丑年郷帳始りたる其比
よりの定直段なるべし又貞享元祿の比穀の價貴く石五斗代の半
減壹石貳斗五升代に成りし由或書に見ゆれども儘ある出処ゆかり其
後享保に至りて弥貴く成りし付享保七寅年より永壹貫文米壹石代りて
五箇年平均の厘付と致さるべき旨命せしむ暫く壹石代に成しし程と
元文元辰年より又二十石米の壹石貳斗五升代に成りし右兩条異説の様
るれども何れも水高の時代より石高は移りて永廿貫文高百石は替り則
ち村高の概高なれば永壹貫文の概五石も高五石も同然なり夫と五取
りて米貳石五斗なれば元米廿貫百石より發りたること見へり
但し郷帳と仕組と元永と米は直に早築貳石五斗代の永と四りて除
り壹石貳斗五升代に八りて割る之と四概八概と云ひ貳石五斗代を

其村の其年の厘付ありて之と実厘と云ひ壹石貳斗五升代を五箇
年平均の厘と用ゆるもの虚厘と云説なりと先輩小宮山氏の説よ
り當時の直段は近き方と実厘とし遠き方と虚厘と云る由此説相當
あるべし虚厘実厘のこの既前より本しく之と記しり

相場書之事

上方助諸國石代金納に用る相場書のこの其國と市店馱場湊河岸場寺
の穀同屋どもより相場書と差出たり一國は五箇処二箇処充極りたり
て毎年十月十五日より晦日まで毎日上中下米の相場書と穀屋どもよ
り支配役処へ差出し料処の代官元締手代私領の領主地頭役人奥印を
して其処より代官方へ差出せば代官役処より十六日分の上米を平
均して其國の定法何斗高或は何兩何匁増を加へ國々代官より勘定処

廻米方へ差出し吟味の上石代直段極々真直段と以て年々定りたる定
 石代と金納をりたるより又風水旱虫の損毛等より米性悪く米納し成り
 難き分又何ぞ子細りて願石代と唱へ石数吟味の上相同の石代金納
 成りたり是は定石代直段の上は何程高直段と糶増の定法ありて
 金納を又小物成高掛り物米等の米納も稀は有ども多くを石代金納
 成る此直段の定石代直段と用ひ口米の定法の糶上ありて関東の張
 紙直段二三兩増ちり尤も國より色く納方ありて一様ちりたれど
 も大抵右の趣ちり

一 右石代は用る外は関東助上方筋とも毎年正月四月七月十月と一年の
 四度充朔日より晦日と日く上中下米麦の錢相場書と代官支配限り
 書出と場処五箇処三箇処充定りたりて之と穀屋どもより書出させ代

官より勘定處へ差出し右の相場を以て普請扶持米夫食糧貸養種貸等
 代金とて金蔵より相渡る即の直段は用ひ尤も何と下米下麦の直段
 ちり之を正四七十の相場書と云り

一 種代之事

一 種代と云は奥州上伊達郡磐城の内より石代ちり田畑米取とて取
 米残らば七石替の安石代とて田畑惣取米金納し成る村方あり之と一
 種代村と云尤も多しあし又置場と云村方あり之ハ元外村並半石
 半永の村方あるれども詠りて一種代は成る村ありとて信夫岩手代
 多伊達共郡邊の半石半永とて田畑取米半分の金壹兩と米七石替の
 石代金納るれども一種代の米納る残らば七石替の金納り一種代
 と云名目何の謂を以て唱るや古来より引付しを詠り知ざれども安石

代一種を納むると云ふはもろくべき欲尚考ふべし

一 甲州大切小切之事

甲州四郡の内巨摩山梨八代の三郡は大切小切と云石代なり是は信玄時代より始り右三郡田畑米取を本途見取惣取米の三分一と小切と云ひ安石代金壹兩は米四石壹斗四升替り残り三分二の内又三分一と大切と唱へ張紙直段とて金納し其余の米納り其米納の内は定金納とて張紙直段とて金納する村あり小切の発り信玄領國の即ハ戦國の初るれが商賣の當り薄く穀の價も悉く賤くして永壹貫文は米五石余り鬻ぎ石代は五石壹斗余り由其初り甲州は過念金とて年貢の内と高直段とて納るはなり之を軍用金之とて付米納の内三分一と小切と唱へ過念金の内より石代直段より凡そ二割高四石壹斗

四升替り以て九月中金納させし由其頃ハ初納り付甲州村并三つとて

武斗式并と初壹儀とし今の京料より六斗六升と成る五合四勺五才

余の指すて米三斗六升則ち壹儀あり今ハ甲州は三斗六升入右の初

拾壹儀半つと小切金壹兩納り此頃ハ小判歩判等未だ始ら京料とて

米四石壹斗四升と當り其後武田氏没落し甲州一圓徳川氏は属する

雖も信玄の政事を改革すば其後今ハ武田氏の制と以てするゆへは小

切り古来の通り四石壹斗四升替り金納り武田時代より高直段とて

過念金なるれども時世押移り米穀の價も高く成り當時より至ての安

直段より多分の救助あり右の説ハ柳沢家甲州領國の節其臣佐藤政石

工川恒佐と云人の紀しする由或書見ゆまは天正文祿の比より共

永壹貫文り米五石鬻ると云余り價安く不審の説あり併し其比ら米

五石余其後正保慶安の比、武石五斗天和貞享時分の壹石貳斗五升と
段々半減成りて古書彼此の見ゆれば永祿元龜の比を右の價より
我れ知るに扱大切と張歎直段は極るて徳川時代も成ての法ゆれば
古来武田氏領國の砌りの石五石壹斗五升の直段を用ひしるや本傳え
ゆらく小切直段の外石代直段の知るに書物に見當るるに
一諸國俵入之事

本朝米苞の量數延喜式凡公納運米五斗為俵仍以三俵為駄自余雜物
又準此其遠路國者對量減せとゆれば往古の五斗入り定りて見ゆ
當時の國々の俵入悉く異同ありて關東の三斗五升入りれども俵入を
壹俵の貳斗充と加へ三斗七升入りたり出羽國上村山郡前田川由利館海後郡の四斗八升入甲州の三斗六升入奥州上岩城奥州
の國 并美作國の三斗三升入奥州上白川郡若代國并越後

越前三河遠江駿河美濃丹波但馬備後四斗八升尾張攝津播磨前關後
肥後五斗入りたり料処の内より此の如き俵入の差あり此外より料処
の俵入の異同何程ありし私領方より況て國々の俵入區々ある
る關東の私領より上州の四斗貳升又の四斗三升入下総の三斗九
升又の四斗八升後國の三斗三升入りて壹俵より米壹斗充を加へ三斗
四升入りたり此外諸國の遠い多のるべくれども其大畧を記せりあり
一關東の國々壹俵と三斗五升入と極る中古 日本國中料処の
取道无難こそ平年二三箇年と平準し免三箇五六分は當り高百石より
米三拾五石程の依りて壹俵と三斗五升入と極め蔵前取の面々知行
高百石百俵の定法に成り其後享保六丑年より同十五戌年まで十箇

改正日本書紀卷之四十一

年の内中々々當る年と平均して料処高凡四百廿万石余此本途取米百拾九万四千八百石余金拾壹万五千五百兩余此取百五拾万六百石余免三箇五分七厘余は當りとし代官辻六郎左工門相様し同人の書記を見ん

一 右俵入のて中古の蔵納米斗料より山盛計よりゆへ三斗五升入壹俵ハ四斗余り入り其後山盛と料扱を極落しを納むべき旨命せしめて故壹貳斗入り減じて下民の救助と成る尚又元和二辰年民家救助として三斗五升又貳斗の延米を加へ三斗七升入とし此七升目と山計より納む其後何の比り三斗七升の上は延米貳斗を加へ三斗九升とし納めしるてある由られども此事ハ一兩年を止し又元の三斗七升

山計の成り今も其通り納めり

一 往古小給の面々へは勝手の為り上田の場処を宛行し三斗五升入は貳斗の延米を成し其上は又五升を加へ四斗貳升俵納と成る今蔵入を五斗の俵入に改め私領上知又ハ國替村替等々を料処に成てハ私領引付を以て古来の俵入より納るゆへ料目差ひりり關東の内より私領を種々の俵入り既ハ武州新坐郡野火止領あどの料目ハ四斗貳升入りて納の俵入を三斗五升の勘定に致さゆへ壹俵は七升充の延米よりある是則ち右は往古の遺風と見えり

一 甲州の年貢前々ハ納りて俵入を壹俵は甲州料貳斗貳升入あり甲州料ハ武田信玄時代の遺法より今の京料三斗又ハ甲州料壹斗と云當時より都て三斗料を用ゆ尤り京料を用と雖も稀のてり穀物の相場等り

三升枓マサと何斗何升と唱へ又京枓ケウカを用るとは京枓何程と断らざれ
 だ甲州コウシュウ一國の者ハ今も不承知あり甲州枓ハ免許ケンギョの枓坐マサ甲府コウフより
 江戸マサ練枓坐マサを用ひ然し京枓ハ江戸マサ坐マサを用ひ又京枓三升入と一升
 と去一升五合入と半と去七合五勺入と小半と唱へ諸色賣買バイも半小
 半と呼ヨシで枓目マサと去り右マサ式斗式升入ハ京枓マサを六斗六升より之を
 五合摺マサまれば米三斗三升マサ成べき処マサ性宜マサきゆへ米摺マサも多マサ故
 六斗六升入の米マサと三斗六升と立マサるものと見へ甲州米壹俵ハ三
 斗六升入あり此割合マサとてハ五合四勺五才余の摺マサ當マサる又往古マサ糶納マサの
 ところ日本一マサと雖マサ甲州マサハ世上米納マサ成マサる後マサ近マサ糶納マサ致マサる
 由マサ今マサの米納マサハ何の頃マサより始マサりマサや時代詳マサし知難マサし

一 四箇物成三箇五分物成之事

四箇物成三箇五分物成のとき高百石と去ハ元米マサ百石マサと米マサとて
 四拾石マサあるも何れ三拾五石マサあるも何れ何れ糶納マサより起り四半俵
 三斗五升俵と去と出菜マサ申マサ録マサと去書マサ見マサぬれど何程不出菜の
 糶マサとも死難マサの糶マサ四合摺三合五勺摺と去糶マサハ先マサハ多マサとて大緊
 四合五六勺より五合六合位マサハ摺マサのりより高百石ハ元米糶百石と去
 ところ往古マサ糶納マサの節マサ百姓マサ作り出しマサる糶マサと残マサらば地頭マサへ取マサるハ何
 らば四マサ分マサ五マサ分マサ上納マサの積マサりより石高マサ始マサる以前マサ水高マサ買高マサ或ハ町步
 こそ知行マサしマサる糶マサ何程と納めマサるハ依マサりマサ依マサ令マサハ糶百石納マサるハ地頭
 こそ米マサとて五拾石あるハ付石高マサ始マサる則ち糶マサの石数マサと石高マサとし五
 取マサの積マサりより米五拾石より糶納マサるとも又石高始マサりて米納マサ成マサると
 同様マサる右マサのどく糶摺マサの勘定マサとて四取三五分取と残マサらば年貢マサ取マサて

本石計立

百姓作徳^{サヤク}おちやう^チ成^{ナリ}めき何^{ナニ}を以て^{ヨリ}耕作^{コウサク}と学^{マナ}むべきや^{キニ}鈴録^{シヨク}の説^{セツ}
甚^タだ不審^{フサン}あり四^シ成^シ三五^{ソウゴ}分^{ブン}成^{ナリ}と云^{イハ}今^{イマ}の厘^{リン}付^{ツキ}の工^{コウ}よて高^{タカ}百石^{ヒャクシヨク}の取^ト米^メ四^シ
拾石^{シヨウシヨク}三拾五石^{サンシヨウゴシヨク}免^メより^{ヨリ}四^シ取^ツ三五^{ソウゴ}分^{ブン}取^リ當^{タウ}り知^チ行^{コウ}物^{モノ}成^{ナリ}俵^{ヒヤウ}取^リの面^{オモ}々^々俵^{ヒヤウ}入^リ
の枓^{フスカ}数^{カズ}を以て^{ヨリ}云^{イハ}葉^{エフ}あり^{アリ}諸^{シヨ}族^{ゾク}方^{カタ}の家^{ウチ}中^{ナカ}知^チ行^{コウ}渡^{ワタリ}の節^{セツ}右^{ミダリ}の免^メ合^{ガイ}相^{ソウ}當^{トウ}し
て其^{ソノ}家^{ウチ}より^{ヨリ}四^シ斗^ト入^リ百^{ヒャク}俵^{ヒヤウ}と百^{ヒャク}石^{シヨク}と立^タる^ルより^{ヨリ}三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}入^リ百^{ヒャク}俵^{ヒヤウ}と百^{ヒャク}石^{シヨク}
と云^{イハ}れ^ルる^ルも^モ前^{ゼン}条^{ジョウ}より^{ヨリ}徳^{トク}川^{カハ}家^{ウチ}の蔵^{クラ}前^{ゼン}取^リ入^リま^スと^スて^テ三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}入^リを
百^{ヒャク}石^{シヨク}ハ百^{ヒャク}俵^{ヒヤウ}あり私^シ領^{リョウ}り多^{オホ}くハ三^{サン}五^ゴ分^{ブン}物^{モノ}成^{ナリ}あ^ルれ^ルも^モ四^シ物^{モノ}成^{ナリ}の家^{ウチ}も多^{オホ}く
又^{マタ}四^シ斗^ト或^シ三^{サン}升^{シヨウ}入^リより^{ヨリ}百^{ヒャク}俵^{ヒヤウ}百^{ヒャク}石^{シヨク}と^ス渡^{ワタリ}る^ルより^{ヨリ}或^シハ三^{サン}斗^ト三^{サン}升^{シヨウ}四^シ升^{シヨウ}七^{シチ}
升^{シヨウ}多^{オホ}く^ク入^リを^ス百^{ヒャク}石^{シヨク}百^{ヒャク}俵^{ヒヤウ}の家^{ウチ}より^{ヨリ}然^{シカ}も^モ領^{リョウ}地^チ知^チ行^{コウ}替^カ寺^ジの物^{モノ}成^{ナリ}詰^{ツメ}
成^{ナリ}て^テも三^{サン}五^ゴ分^{ブン}の定^{テイ}法^{ホウ}と^スなり
一本^{イツポン}石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}之^シ事^ジ

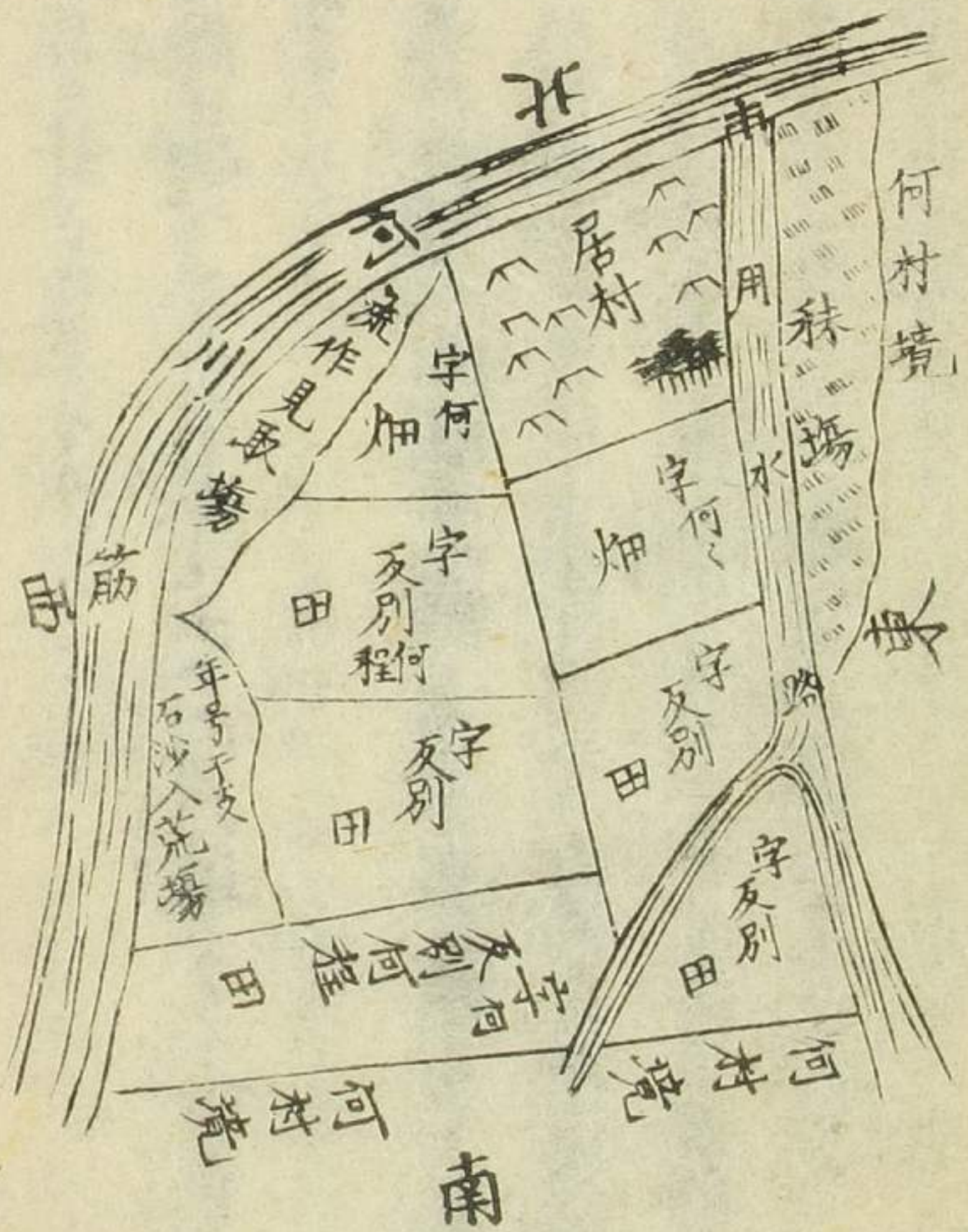
本^{ホン}石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}立^{テイ}上^{ジョウ}方^{ホウ}前^{ゼン}東^{トウ}筋^{ジン}一^{イツ}筋^{ジン}より^{ヨリ}上^{ジョウ}方^{ホウ}筋^{ジン}へ^ヘま^スて^テ本^{ホン}石^{シヨク}と^ス出^デ
さ^スら^ニ計^{ケイ}立^{テイ}納^{ノウ}め^メより^{ヨリ}深^{フカ}東^{トウ}の納^{ノウ}米^メ三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}と^ス三^{サン}斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}と^ス納^{ノウ}る^ル本^{ホン}
石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}と^ス云^{イハ}元^{ゲン}ハ川^{カハ}伊^イ豆^{トウ}駿^{セン}河^カ三^{サン}河^カ遠^{エン}江^カ此^{コノ}國^{クニ}本^{ホン}石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}相^{ソウ}止^トみ^メ上^{ジョウ}方^{ホウ}筋^{ジン}同^{ドウ}様^{ヤウ}計^{ケイ}
祿^{ロク}十六^{ジュウロク}未^ミ年^{ネン}より^{ヨリ}駿^{セン}河^カ遠^{エン}江^カ三^{サン}河^カ三^{サン}箇^カ國^{クニ}ハ本^{ホン}石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}相^{ソウ}止^トみ^メ上^{ジョウ}方^{ホウ}筋^{ジン}同^{ドウ}様^{ヤウ}計^{ケイ}
立^{テイ}納^{ノウ}め^メ成^{ナリ}より^{ヨリ}本^{ホン}石^{シヨク}計^{ケイ}立^{テイ}と^ス云^{イハ}れ^ル石^{シヨク}数^{カズ}三^{サン}斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}と^ス掛^{カケ}三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}と^ス除^{ノゾ}ぐ^ク三^{サン}斗^ト五^ゴ
升^{シヨウ}と^ス武^ブ外^{ガイ}充^{チュウ}の余^ヨ米^メ加^カり^ル三^{サン}斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}と^ス成^{ナリ}る^ル帳^{チヤウ}面^{メン}等^{トウ}と^ス仕^シ組^{クミ}より^{ヨリ}仮^カ令^{レイ}バ^バ年^{ネン}貢^{クワン}
米^メ本^{ホン}石^{シヨク}百^{ヒャク}五^ゴ拾^{シヨウ}石^{シヨク}此^{コノ}計^{ケイ}三^{サン}斗^ト五^ゴ拾^{シヨウ}八^{ハチ}石^{シヨク}五^ゴ斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}壹^{イツ}合^{カウ}此^{コノ}俵^{ヒヤウ}四^シ百^{ヒャク}五^ゴ拾^{シヨウ}三^{サン}俵^{ヒヤウ}武^ブ
升^{シヨウ}壹^{イツ}合^{カウ}と^スある^ル本^{ホン}石^{シヨク}ハ百^{ヒャク}五^ゴ拾^{シヨウ}石^{シヨク}あ^ルれ^ル共^{トモ}三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}武^ブ外^{ガイ}充^{チュウ}の余^ヨ米^メ加^カる^ルと^ス
計^{ケイ}立^{テイ}と^ス云^{イハ}れ^ル石^{シヨク}余^ヨ米^メ加^カり^ル米^メと^ス三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}入^リの俵^{ヒヤウ}直^{チキ}以^イ勘^{カン}定^{テイ}より^{ヨリ}三^{サン}斗^ト五^ゴ
升^{シヨウ}と^ス俵^{ヒヤウ}直^{チキ}致^チせ^セども^モ納^{ノウ}の俵^{ヒヤウ}入^リを^ス三^{サン}斗^ト七^{シチ}升^{シヨウ}充^{チュウ}入^リる^ル付^{ツキ}本^{ホン}石^{シヨク}百^{ヒャク}五^ゴ拾^{シヨウ}石^{シヨク}
の米^メ納^{ノウ}成^{ナリ}ても^モ実^{ジツ}の枓^{フスカ}目^メ百^{ヒャク}六^{ロク}拾^{シヨウ}七^{シチ}石^{シヨク}六^{ロク}斗^ト三^{サン}升^{シヨウ}壹^{イツ}合^{カウ}と^ス成^{ナリ}る^ル三^{サン}斗^ト五^ゴ升^{シヨウ}

るもの穀数と頭き石と俵は直にこれの算用にて三五は除て俵数
 と出せども俵入を三斗九升或は四斗式升入は付書面は出さば石数の
 増らるる然れども本石と云を三斗五升と心得るハ僻事なり關東の
 本石を三斗五升あれども上方筋余國ハ然らば四斗式升入の本石
 を四斗三斗六升入の本石ハ三斗四升五斗入を四斗八升と百姓より
 納る処々何れも式升入の計立出目と加え取立まざる本石と云名目ハ
 く俵入の内は計立の出目を加り居て其加ふる料目と何斗何升入と
 通用するもの本石ハ頭き石又關東の本石と云るとハ三斗五升入百
 俵と免三五分の勘定と百石の物成と見積るゆえ本石と見まるとハ
 り依て上方遠國ハ本石の名目ありて計り立る
 張紙直段計立三拾五石ハ付何拾何兩とありと計立する米三拾五石ハ

て直段と極るゆへあり納米ハ三拾五石と本石とて之ハ計立式
 升を加え俵は直して納るといへども渡米ハ計立は成るる米何百拾
 石と為り付本石あり計立の米あり
 一 在大豆餅米等の納め物と本石負数と云ハ心得違るる之ハ色成と何
 とも計立のともあり
 一 六尺給米宿人用米ハ臨時の高役ゆへ前より本石納るる古米勘定処
 より割賦あると何拾何石本石と書付てりり近來ハ勘定処混雜ゆへ
 間違あるともり享保十七年餅代金納の節本石と書付りりて間
 違の由より其後糺しの上計立の算数ハ決着せしとありりり
 一 検地仕方の補闕耕地繪圖認方の事
 是ハ検見以前村役人地主立合不同多様立毛見分りり内見帳と差

出ると其村の耕地繪圖右の如く認め差出さるるなり

耕地繪圖



右の通繪図あつては村方方角の知とざる故内見帳と共に差出さるる也但し飛地他領入組の地所と夫の色分りべし檢地の三の卷

一郡縣封建之制并は西洋各國政体之事

和漢國と建するの大法ニツリ一々郡縣と云ひ一々封建と云郡縣の法

る天下第一

禁裏の所領より國々へは年限を極め公家方任官して其國の政事と

執り行ふ是を郡縣と云封建の制は國々を諸侯と封じ其地の政事其

領主其地頭を委任して

朝廷より御構ひあり是を封建と云

皇國の上古は國々を君長より封建の趣あり上世の事のみ其法

詳くありて人皇第十二代

景行天皇第十三代

成務天皇の御宇より右國の君長王化は服せざるものを是と平らげ

其國人を撰ひ國造を置り是第二十七代

孝徳天皇の御宇に至り海内を平定し王の國々へを公家方より任國たりて尚又介掾目等の役入を置りれ始めて郡縣の法を建玉ふ其頃ハ諸國の貢米を二分し一は正税と唱えそ

天子の倉廩は納め主税頭之と司たり一は公解と云く國司以下介掾目等の役料は下され此外民の年歳より正丁中男等とかけ日數を定め人夫を遣ふ是を庸と云人別は掛く絹布又ハ其地の産物品々と納めしむ是を調と云右の庸調と主計頭之と司たりしあり尤も食封給田功田位田職田と云くは位階官職又ハ勤功等より賜りたる米邑家は公園の起りありしは其領主へと正税との下され公解の右の諸役入は下され其領地の政事向ハ領主相與の儀を以て國司以下の取柄

あり備上古ハ武門武士と云りのあり國家軍事ありと云

天子親ら征伐たりせし若又兩障りたりと云 皇子皇后之代ら

せし征討たりしゆハ大推上は在て海内より治たり三韓諸國を臣

服來朝せしとあり然る其後唐朝の制は倣ひ初て文武の官を分け兵

部省と建く將帥を置き天下の民を三分し一は其一分を兵士として

朝廷へ宿衛せしめ邊陲を防禦致さる軍功ありと云と田地を賜ひ之を

子孫に傳へしむ是武家領知尤も文官よりとりしは其時其任は堪へ

しる人ハ大將を命ぜりと國々の兵士を指揮し軍陣は臨みしめ玉ひし

處藤原氏外戚を以て政權を擅りし其一族よりは卿相の位を登

ることを得ば百官も其職を世々し將帥の任は源平西家は限る様成

り行武門の稱是より始りたり其後第百五十代

光仁天皇第五十一代

桓武天皇の御宇より軍事打續き天下の民柔弱ありのハ農と營と勇壯
あり者と武事と調練し右西氏の旗下より屬し源氏の家人平家の家人ふ
どく各々黨と立ちあはるるに至り兵士と農民と漸く分るるに至り貞觀延喜
以来百度廢弛し上下懸隔し諸國の兵士軍功を以て爵を賜り衛府の官
左兵衛右兵衛左衛門右衛門の類ありと稱し武士の名格めて起り其勢は次第に強く其上
西域の佛法

皇國は渡りし以後 御代に寄附地等は是より寺社の領地追々強大に成
茲僧猶祝國司の下知を用ひば其甚しきに至ると柵と結ひ兵を集め
王命を叛き奉り我意を慕り兇暴の挙動是なるより第七十二代
後三條天皇其惡弊を御改正あらはせしと種々宸襟を悩まされ玉ひし

いん恨らくと御在位長くよめしゆきん 南御の後々ス日よ復し承保し
り天仁に至り諸庄國天下に充滿し守介の支配する所は僅よ一二分と
成り國司其任國を就るは其國々の豪族武士を目代とし依り其國の政
令を進退いささせ武家の勢益々強大あり然るよ

鳥羽上皇崩後介平忠盛と寵遇ありて刑部卿に任し昇殿と聽され其
子清盛平治元年源信賴が党を平定せしより官秩寵祿其門は集り其
身の大政大臣に近身進し方檄の政を掌握し平氏一族の知行三十餘國
庄園五百餘箇処に及べり是より領地の年貢を家人に取立させ右目代
とも用ひざるころ成行より此時より方源賴朝

後白河法皇の院宣し奉り本曾義仲と追討し平家の一族を西海に感かし
初て鎌倉幕府を開き日本總追捕使征夷大將軍に任じ諸國の武士を

挙て其指揮は従へしめ自ら相模武蔵上総下総安房伊豆信濃越後等々
領しされども

朝廷より其儘は捨置られ刺へ大功田百町と給より 尚願は任せ豊後國
に下されしより 國家の大権武家は皈し國司の外は守護を置き

禁裏の所領を守らせ公家の庄園は地頭を置いて其取締を致させ猶兵
糧米を号し権門勢家の領地とも論せ別段は米五升と出させ國々の

家人を追領地を加増し國宣廳の催しと怒緒し郡縣の制殆んと廢絶
は第九十七代

後醍醐天皇北條高時の暴横を逆鱗在中興の所企りしより武家の心
を收めんが為め足利兄弟武蔵下総常陸遠江に賜ひ新田兄弟は上野

播磨駿河越後と賜ひ楠正成は摂津河内和泉に賜ひ其外軍功の甲乙は

一箇國或は五六箇庄と賜ひ既に封建の勢ひを催せり其後足利
氏將軍の時に至りては海内の政權其掌握を皈し其家人の功ある者は

國郡と予へ守護職を先其一族は鎌倉の管領足利左馬頭直義を關
八州は奥羽は今の分封と領し斯波義時を越前美濃尾張に領し其家臣

ある細川頼春等の讃岐河津丹後を領し畠山基國等河内紀伊越中
を領し大内政弘等安藝周防長門豊後を領し赤松圓心山名宗全等但馬

播磨備前伯耆因幡美作石見を分領し京極六角氏近江出雲隱岐飛騨を
領し一色氏丹後を領し土岐氏濃州北邊郡を領し武田村上諏訪等の諸

家甲斐信濃を領し今川氏駿州遠州三州を領し西國は河野大友東國
は佐竹結城千葉等の諸家具國を分領し國司の任意は廢絶し

禁裏仙洞女院宮方の所領を除き天下の租税全く守護職へ納る様を成

り始て封建の形と顕る是より後足利將軍義政の時に至り群雄党々
結ば其領國を割拠し足利家の政令をも用ひて陪臣とを誦訪村上の武
田富樫の長尾大友の童造寺細川の三好赤松の浦上大内の陶京極の浅
井土岐の斎藤等戦争掠奪天下大は乱る

王室の衰弊爰に至り極まり斯く

正親町天皇の御宇永祿元龜の頃織田氏斯波の陪臣より起り近畿十八箇

國を平定し

朝廷を尊奉し

禁裏を造管けりしを其功半ありて遂に明智光秀が為り弑せり
をし其臣羽柴秀吉毛利家と和を結ひ中國より馳上り織田の一族諸
臣を指揮し山崎をかたき光秀を誅戮しこれより羽柴の威名遠近は震

ひて四方を討殺し降る者々撫逆者々討殺歳々々々海内を平均し

諸功臣と各國を封じ全く封建の形を成せり是より后

後陽成天皇の御宇慶長五年八月関ヶ原の役より一々寰宇悉く徳川氏よ
飯せし后々大坂落城以前随従の士と譜代と唱へ落城已後飯取の士と
外様と稱し譜代八千廿三家外様八十六家同門の士八家賓礼の士十八
家と夫々差別ありて日本の石高二千八百拾九万石の内二十万石を忠
勤の大小名と千名を是と私領と稱し八百十九万石を將軍家の邸料
所と唱へ弥封建の世と成り右々

皇國沿革の概畧より古今政度の变迁租税の強弱あり所あり地方の
携り人々其大畧を辨べりて記すものあり
但し西洋各國より々々右郡縣封建の外に貴族會議を其國の貴族名

家相集り國政を行ふを「アリストクラシ」と云ふ又共和政治とて門地貴賤を論ず人望ある者を立て主長とし國民一同協議して政事をあはれ之を「レボリック」と云ひ或は立君特裁とて魯西亞漢土等の如き政治を「テスホット」と云ひ又立君定律とて國に二王ありといへど一定の國法ありて君の權威を抑制するなり歐羅巴の諸國此制度を用ふるもの多し尚其季しきるの洋書を見て知るべし

國号郡名郷名之事

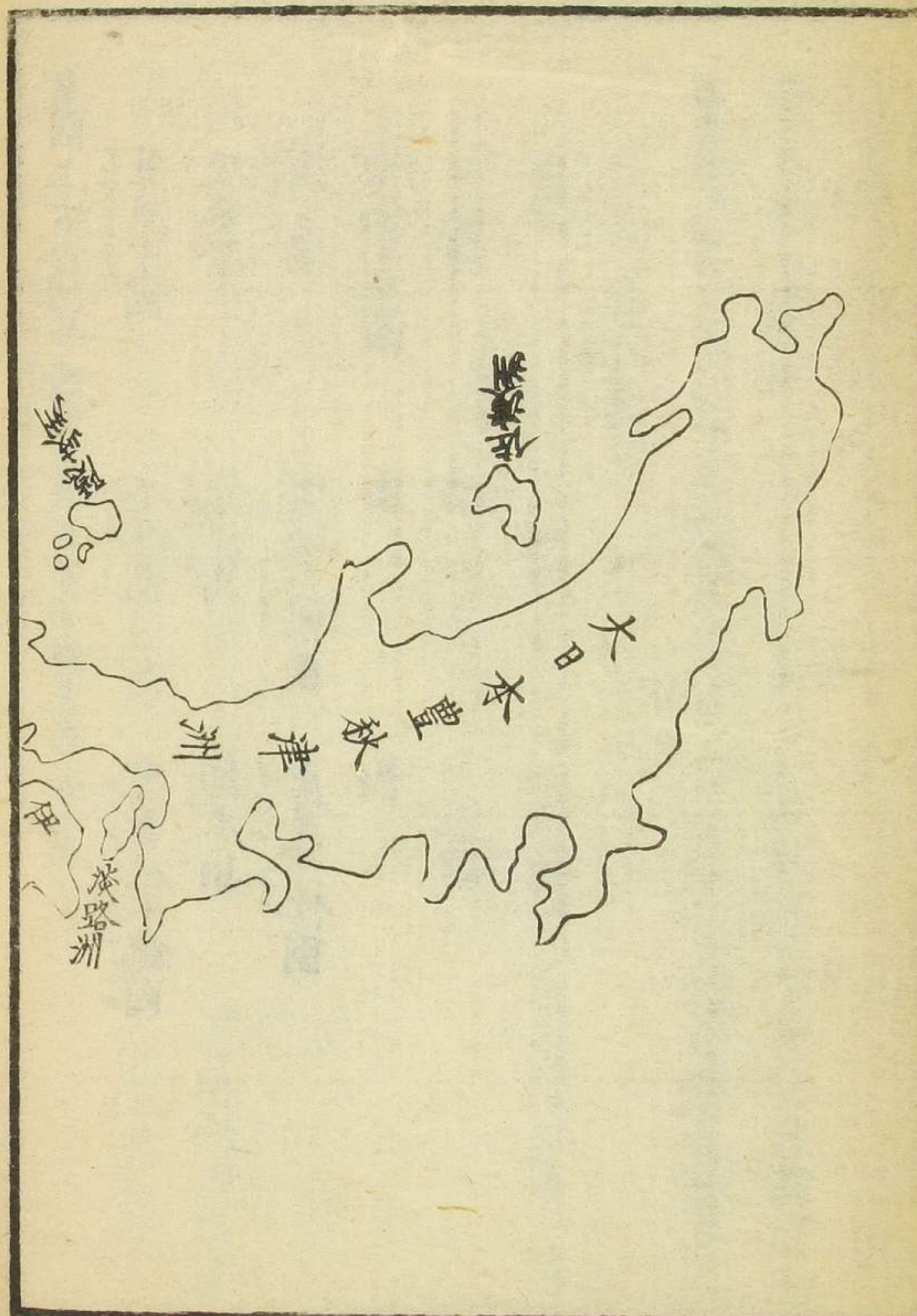
上古の國号郡名郷名とも或は三字或は二字又は一文字元那志或ハ木の國等の類ズリを用ひ字数定らん然るは和銅六年五月の詔に畿内七道諸國郡郷名著好字と見へ又延喜民部式に凡諸國部内郡里等名並用二字必取嘉名と見えり此時より國郡郷名の文字定りしとあるべし又

皇國上古の國号國史に散見する処左の如し

- | | | |
|---------|-------|--------|
| 葦原中國 | 水穗國 | 豐葦原水穗國 |
| 夜麻登 | 秋津島 | 師木島 |
| 浦安國 | 師礪島倭國 | 虛見津倭國 |
| 細戈千足國 | 倭 | 和 |
| 和奴國 | 礪取盧島 | 大倭國 |
| 日本 | 比能母登 | 野馬臺 |
| 大日本豐秋津洲 | 大八州 | 大八島 |

右の大八島と云ふは淡路洲伊豫二名洲筑紫洲壹岐洲對馬洲佐渡洲隱岐洲大日本豐秋津洲の八州と云ふ是を其土地の廣陝を論ず左の圖の如く海水の隔を以て國を分られしと見えり

皇國上古の國号國史に散見する処左の如し



人皇第十二代

成務天皇五年秋九月上則隔山川而分國隨軒陌以定邑里因以東西為日繼
 南北為日横山陽曰影面山陰曰背面日本紀又見ゆれども後世の
 際やうあるといふありしあるべし古事記より陸奥の岩城の國造常陸
 の仲國造とらり又日本紀より春日國萬葉より吉野國初瀨國と云るなり



制度通新策二百四十四國と記せると旧事記の國造本記は概して
信し難し借後より一國と二國より三四國より割又と二三箇國の一國
を併せ或は上古を國名より今郡名とあり又古へと郡名より今國
名と成るものあり其 御世々々増減ありて天長元年に至り六十六
箇國の二島を加へ全く六十八箇國と定まり尚方今奥羽蝦夷の分割
國名等初篇は委しく記し
一郡名を類聚國史國造の條に延喜十巳年三月詔曰昔准波朝始置諸郡と
あり併し諸書の異同少ありて延喜式より五百九十郡和名抄より五
百九十二郡神皇正統紀より五百九十四郡拾芥抄より六百四郡太子傳
より五百七十八郡和漢三才圖繪より六百三十二郡となり是を其世々
りて増減ありしあるべし方今と五畿七道より六百三十八郡之に北海
道八十六郡を合せくと七百廿四郡と成るなり

一 郡名和名抄は詳しあれども今世不用の儀あり之を記さば

古今租税名目之事

日本紀より八年貢の事と多知加良と云り是を田力とて民の力を以て作
りし米穀あるあり又大知加良より云都て地租の事と云り云と云よ
り年貢と司る役人主税と云り云と訓より又年貢の事と古事記より
御調延喜式より地子東鑑より八年貢或は乃貢又を清物と云り又日
次記より物成と云り徳川家より取箇成箇物成又関東より年貢の
内夏納ると夏成と唱へ又田畑の年貢と本途と云ひ其外諸役運上其加
永分一等の類と小物成と唱ると云り是等の末前後篇
は委しく記せり
漢土より田賦積賦租税賦田税礼王 田租魏年量蠲税子地稅文獻朝
鮮より年助と云又西洋より年貢と唱る由皆是年貢の事あり

一日本國總石高之事

元祿元戊辰年日本國所料所私領寺領社領等に至りては總石高を改めり其後百四十九年を経て天保七申年又々増減所改正ありける皇國の總石高左の如し

山城 元祿高廿七万四千二百五十七石七斗八升八合壹勺六分

天保高廿三万百三十壹石七斗六升八勺六分

大和 元祿高五十万四千九百九十七石三斗八合六勺八分

天保高五十万一千三百五十壹石六斗九升壹勺五分六分

河内 元祿高廿七万六千三百廿九石八斗二升九合五勺四分

天保高廿九万三千七百八十六石六斗六升四合五勺

和泉 元祿高十六万六千六百九十二石壹斗二升六合四分

天保高十七万二千八百四十七石九斗八升六合

摂津 元祿高三十九万二千七百七石六斗九升九勺八分七厘

天保高四十壹万七千三百九十九石壹斗二升七分

伊賀 元祿高十壹万九千六百五斗三升六合

天保高十壹万九千六百五斗三升六合

伊勢 元祿高六十二万二千七百四斗四升二合

天保高七十壹万六千四百五十一石四斗九升二合七分

志摩 元祿高二万六千壹石六斗四升壹合

天保高二万四千四百七十石三斗九升八合

尾張 元祿高五十二万四千四百八十石五斗壹升八合

天保高五十四万五千八百七十三石七斗九升三合

三河 元祿高三十八万三千四百十三石四斗四升二合二分

天保高四十六万六千八十石七斗四升六合八分

遠江

元祿高三十二万八千六百五十壹石四斗三升六合五勺八才

天保高三十六万九千五百五十二石五斗七升五合壹勺八才

元祿高廿三万七千九百三十七石四斗七合二勺八才

駿河

天保高廿五万五百三十八石七斗五升三合九勺

元祿高廿五万三千廿三石二斗七升壹合三勺

甲斐

天保高三十壹万二千五百五十九石三斗二升九合四勺九才

元祿高八万三千七百九十一石二斗八升二合三勺五才

伊豆

天保高八万四千七百七十一石二斗九升三合六勺二才

元祿高廿五万八千二百十六石五斗八升二合四勺

相模

天保高廿八万六千七百十九石七斗五升六合八勺九才

永高
千三百四十六貫六百七十文

武蔵

元祿高百十六万七千八百六十二石九斗八升三合三勺九才

天保高百廿八万四千四百三十一石六升八合二勺

安房

元祿高九万三千八百八十六石二斗一升二合三勺

天保高九万五千七百三十六石二斗一升九合七勺

上総

元祿高三十九万四千百十三石九斗五升四合一勺一才

天保高四十二万五百八十四石四斗五升三合四勺一才

下総

元祿高五十六万八千三百三十一石一斗一升三合七勺四才

天保高六十八万六千六十二石六斗三升一合六勺六才

常陸

元祿高九十万三千七百七十八石四斗五升八合

天保高百万五千七百七石四斗九升九合三勺

近江

元祿高八十三万六千八百廿九石七斗二升七勺八才

天保高八十五万三千九十五石三斗五合五勺一才

武蔵地方元祿

三十九

美濃

飛彈

信濃

上野

下野

陸奥

元祿高六十四万二千一百一石五斗三合

天保高六十九万九千七百六十四石三斗二升一合六夕六寸

元祿高四万四千四百六十九石二斗一升九合

天保高五万六千六百二石三斗九合

元祿高六十一万五千八百十八石七斗三升七合五夕四寸

天保高七十六万七千七百八十八石壹升七合六夕

元祿高五十九万八千四百四十四石四斗八合八夕七寸

天保高六十三万七千三百三拾壹石六斗三升三合壹夕

元祿高六十八万七千七百二石八斗壹合四夕六寸

天保高七十六万九千九百五石二斗七合三寸

元祿高百九十二万九千三百三十四石八斗八升七合四夕五寸

天保高二百八十七万四千二百三十九石五升九合八夕八寸

出羽

方今二
國已成

若狹

越前

加賀

能登

越中

元祿高百十二万六千二百四十八石八斗三升九合四夕

天保高百廿九万五千三百廿三石五斗二升壹合四夕五寸

元祿高八万八千二百八十壹石五斗二升二合四夕

天保高九万三千三十八石八斗二升二合二夕

元祿高六十八万四千二百七十壹石八斗九合六夕

天保高六十八万九千三百四石八斗壹升九合八夕五寸

元祿高四十三万八千二百八十壹石七斗七升

天保高四十八万三千六百六十五石八斗四升八合七夕

元祿高廿三万九千二百八石七斗九升五合四夕

天保高廿七万五千三百六十九石九斗九升二夕壹寸

元祿高六十壹万石壹斗

天保高八十万八千八石四斗六升壹合八夕二寸

越後

元祿高八十一万六千七百七十五石七斗三升七勺七才

天保高百十四万二千五百五十五石三升五合八勺五才

佐渡

元祿高十三万三千七百七十三石九斗壹升壹合

天保高十三万二千五百六十五石四斗九升壹合

丹波

元祿高廿九万三千四百四十九石五斗四升七合四勺

天保高三十四万四千三百三十六石二斗六升八合六勺七才

丹後

元祿高十四万五千八百二十壹石壹斗八升二合

天保高十四万七千六百十四石八斗四合四勺六才

但馬

元祿高十三万六千七百七十三石二斗三升五合

天保高十四万四千三百十三石八升四合三勺

因幡

元祿高十七万七千七百廿八石二斗八升九合

天保高十七万七千八百四十四石六斗二升四合

伯耆

元祿高十九万四千四百十六石五斗六升七合

天保高廿壹万七千九百九十石八斗二升二合二勺八才

出雲

元祿高廿八万二千四百八十九石七斗三升九合

天保高三十万二千六百廿七石四斗六升五合

石見

元祿高十四万二千四百九十九石二斗三升五合

天保高十七万二千二百九石七斗六升八合三勺二才

隱岐

元祿高壹万二千六百六十五石二斗三合

天保高壹万二千五百五十九石六斗

播磨

元祿高五十六万八千五百七十七石五斗七升九合

天保高六十五万九千九百六十四石八斗壹升三合三勺

美作

元祿高廿五万九千三百五十三石七斗壹合

天保高廿六万二千九十九石九升八合

備前

元禄高廿八万九千二百廿四石七斗壹升

天保高四十壹万六千五百八十壹石八斗五升四合

元禄高三十二万四千四百五十五石六斗二升三合

天保高三十六万三千九百十五石六斗壹升四合二夕壹斗

元禄高廿九万五千六百七十八石八斗八升八合

天保高三十壹万二千五十四石九斗壹升二合

元禄高廿六万九千四百七十八石三斗壹升

天保高三十壹万六千四百四十八石四斗八升九合

元禄高廿万二千七百八十七石六斗七升

天保高四十八万九千四百廿八石六斗七升七合

元禄高十六万六千六百廿三石六斗四升八合

天保高四十万四千八百五十三石三斗三升三合

長門

周防

安藝

備後

備中

紀伊

淡路

阿波

讃岐

伊豫

土佐

元禄高三十九万七千六百六十八石壹升九合

天保高四十四万八千五百五十八石三斗七升七合七夕壹斗

元禄高七万九千四百廿八石壹斗

天保高九万七千六百六十四石七斗八升四合

元禄高十九万三千八百六十二石二斗八升五合

天保高廿六万八千八百九十四石三斗二升九合

元禄高十八万六千三百九十四石四升壹合

天保高廿九万三千三百廿石二斗五升六合四夕

元禄高四十二万九千六百六十三石二斗五升八合五夕四斗

天保高四十六万九百九十七石六斗三升九合三夕八斗

元禄高廿六万八千四百八十四石九斗七升四合

天保高三十三万廿六石五斗二升

筑前

元祿高六十六万六千九百八十壹石四斗二升

天保高六十五万五千七百八十二石二斗七升八合四勺四才

筑後

元祿高三十三万四千四百九十七石七斗六升九合

天保高三十七万五千五百八十八石九升七合八勺

豊前

元祿高廿七万三千八百壹石八斗四升八合三勺

天保高三十六万八千九百十三石六斗四升五勺

豊後

元祿高三十六万九千五百四十六石七斗九升壹合六勺

天保高四十壹万七千五百十四石二斗二升七合壹勺

肥前

元祿高五十七万二千二百八十四石壹斗三升三合壹勺

天保高七十万六千四百七十石七斗二升三合壹勺

把後

元祿高五十六万三千八百五十七石壹斗七升八合

天保高六十壹万九百廿石二斗九升壹合五勺

日向

元祿高三十万九千九百五十四石五斗二升八合壹勺七才

天保高三十四万百廿八石八斗六升壹合五勺九才

大隅

元祿高十七万八千三百三十三石四斗五升壹合

天保高無増減

薩摩

元祿高三十壹万五千五百五石六斗壹勺二才

天保高無増減

壹岐

元祿高壹万八千七十二石八斗六合

天保高三万二千七百四十二石九斗二升壹合

對馬

國高無之

元祿改高合

二千五百七十八万六千九百廿九石六斗四合五勺八才

天保改高合

三千四十三万五千二百六石二升七合六勺五方

差引天保增高

四百六十四万八千二百七十六石四斗二升三合七方

改正補訂地方尺例録卷之四下

明治四年辛未七月刊

高崎

故大石猪十郎著述

孫大石猪十郎補正

見山樓藏版



